

## JE-2

# ITトレンド調査・クラウド利用動向、 企業内ユーザ部門によるIT投資動向

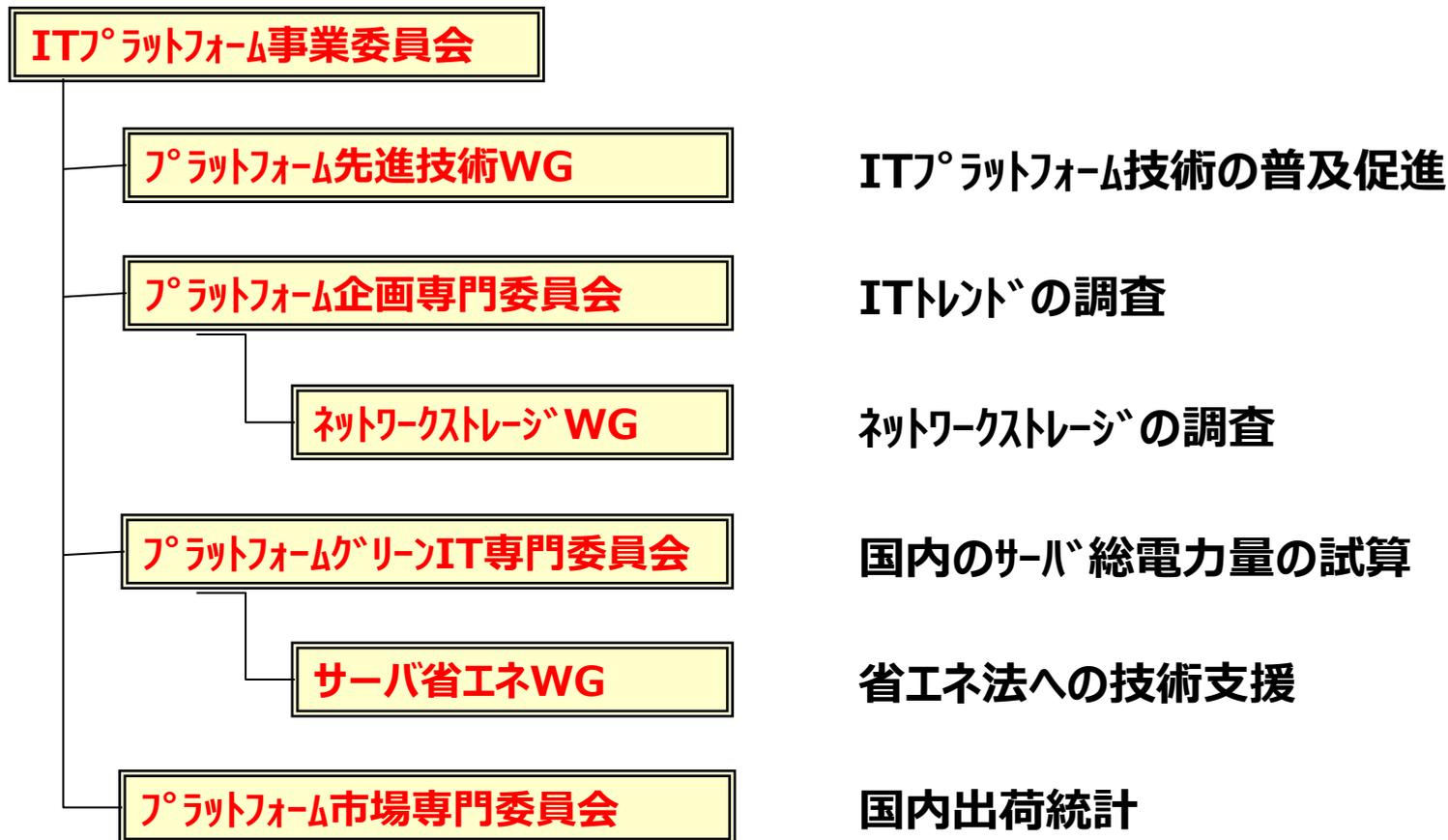
2016年10月5日

一般社団法人 電子情報技術産業協会

ITプラットフォーム事業委員会  
プラットフォーム市場専門委員会  
プラットフォーム企画専門委員会

委員長 村野井 剛  
委員長 香川 弘一  
委員長 三木 和穂

## ITプラットフォーム事業委員会の活動



## ITプラットフォーム事業委員会の構成

### 【委員会参画会社】（五十音順）

インテル（株）

沖電気工業（株）

東芝ソリューション（株）

日本アイ・ビー・エム（株）

日本電気（株）

日本ヒューレット・パカード（株）

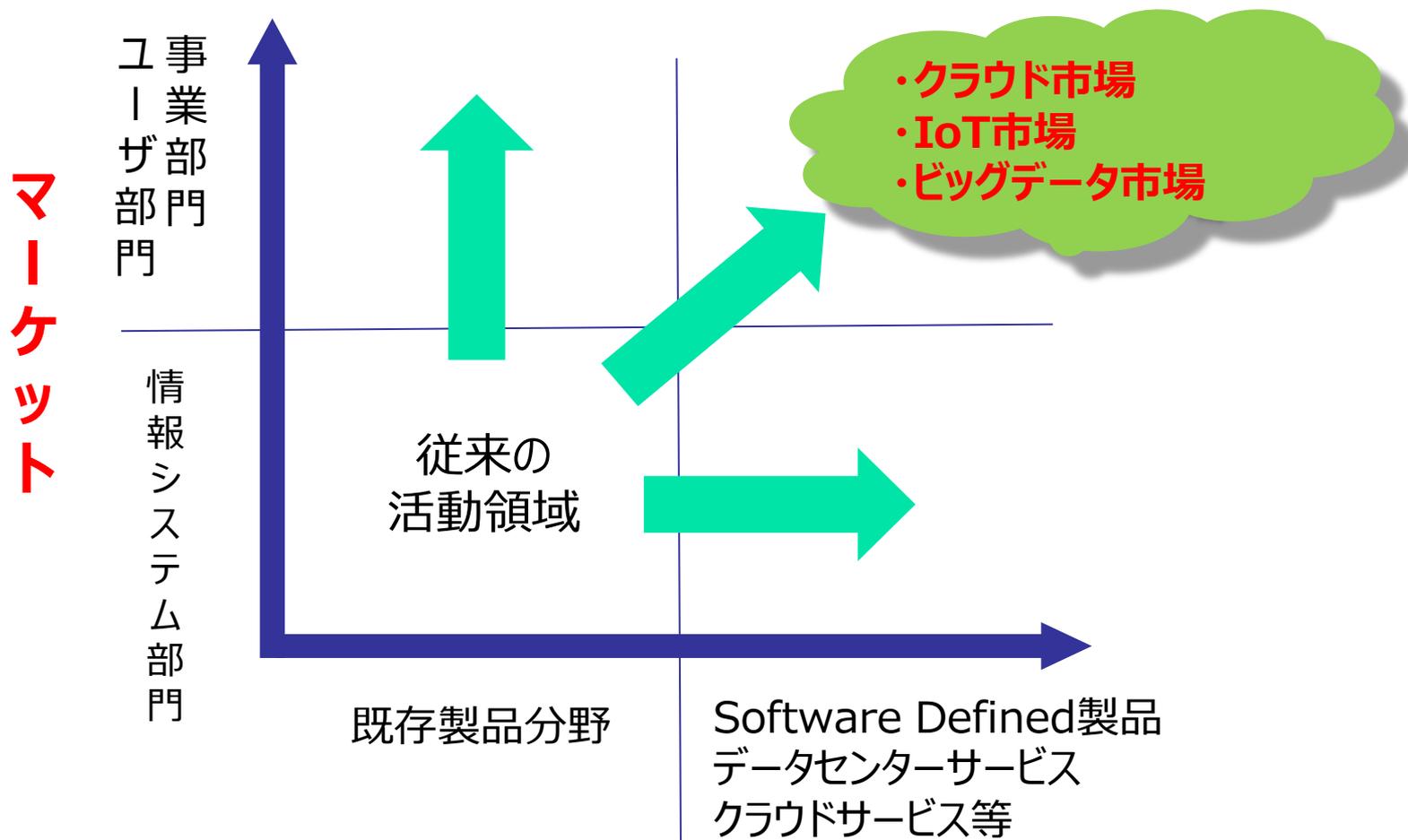
（株）日立製作所

富士通（株）

三菱電機インフォメーションネットワーク（株）

（注）インテル（株）、日本ヒューレット・パカード（株）は、サーバ出荷統計には参加していない。  
レノボ：ジャパン（株）は、委員会には参加頂いていないが、サーバ出荷統計は提供頂いている。

## ITプラットフォーム事業委員会活動の方向性



プロダクト・サービス

## ITトレンド調査

同様の調査を1999年度から継続的に実施しており、ユーザのシステムがどのように変化したか、あるいは意識が変わったかがわかる調査となっている。

## 新たな調査 企業内ユーザ部門のIT利用動向調査

「ITトレンド調査」は調査対象が主に情報システム部門。  
今、IT活用は、企業内のユーザ部門の利用動向が重要。直接ユーザ部門の動向調査のためのインターネットによるアンケートを実施。

## サーバの出荷統計

コンピュータの出荷統計は、1980年頃から行なっている。  
サーバーコンピュータの動向を毎年度把握している。

これらのデータから見えるITトレンドの状況を発表させていただきます。

## 今回のITトレンド調査結果から、 エグゼクティブハイライト3つをご紹介します

- 仮想化時代のサーバ
  - 仮想化システムの普及と相まって利用サーバ仕様も変化している。
  - サーバ単価も上昇傾向にある。
- ユーザ部門主体のIT導入状況と増減傾向
  - IT導入はユーザ部門単独で導入する傾向にある。
  - そのためのプラットフォームは、クラウド活用意向となっている。
- ビッグデータとIoT (Internet of Things) の活用状況
  - IoT調査は、今回初。
  - IoT導入ユーザのヒアリングを実施し、導入効果を伺った。

## 日系企業の世界生産見通しと国内生産

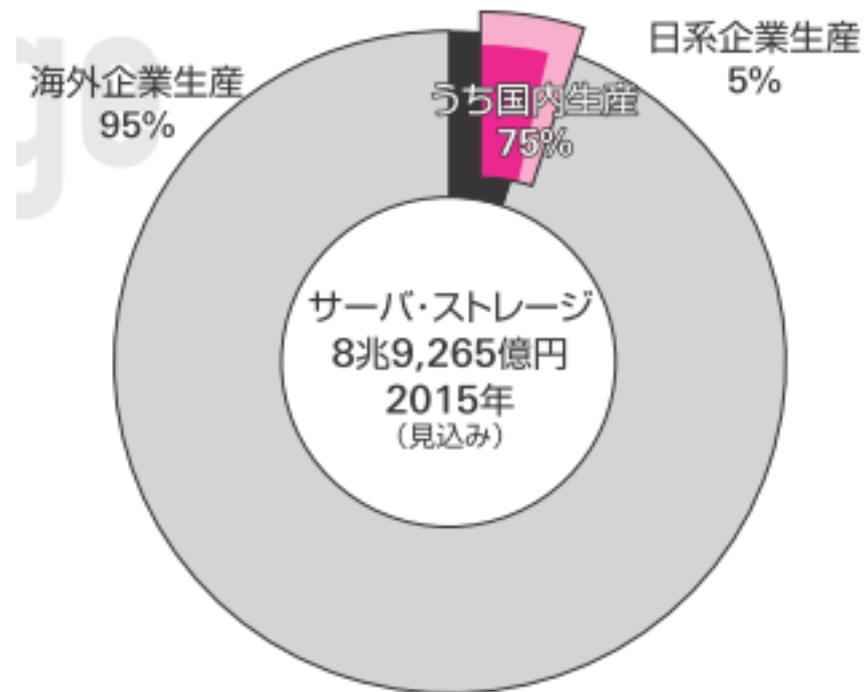
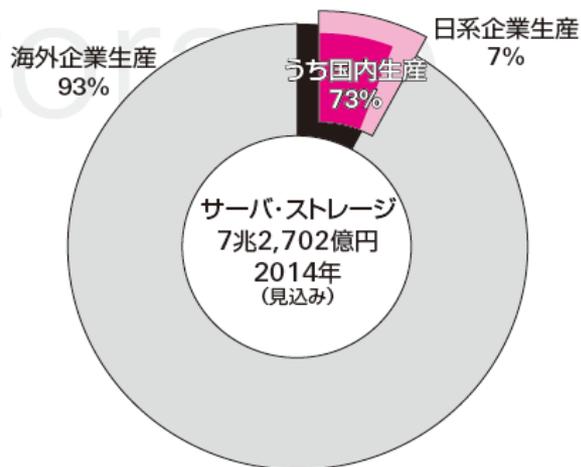
### <プラス要因>

- ITの効率投資、サーバ統合や仮想化の進展
- セキュリティ等が強化された高性能サーバ及びストレージ需要の高まり
- 複数の仮想マシン稼働への対応

### <マイナス要因>

- 国内でのIT投資、絞り込みと効率化
- 仮想化システムの進展、サーバ統合

市場の伸びに対して  
日経企業生産比率は減も、  
国内生産比率は増。



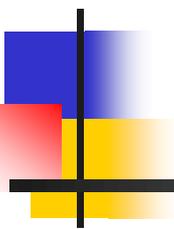
## 継続的な統計活動を約30年に渡り推進

|        | JEITA活動   | IT業界動向  |
|--------|---|---|
| 1980年代 | 「ミニコンピュータ事業委員会／オフィスコンピュータ事業委員会」発足<br><u>コンピュータ出荷統計開始(1980年比値)</u>   | <汎用機による基幹システムの拡大>   |
| 1990年代 | 1993年<br>1995年<br>1996年 「ミッドレンジコンピュータ事業委員会」に改称<br>(オフコン・ミニコンの統合)<br>1997年<br>1998年 2000年問題対策パンフレット作成<br>1999年 <u>ITユーザトレンド調査開始</u>  | <オープン化による応用システムの拡大><br><br>WindowsNT <sup>®</sup> サーバ<br>Unixサーバ<br>Windows <sup>®</sup> 95リリース<br><br>京都議定書 (温暖化対策)<br><br>2000年問題 |
| 2000年代 | 2001年 <u>サーバ総消費電力量試算開始</u><br>2002年 「サーバ・WS事業委員会」に改称<br>(メインフレーム・ミッドレンジの統合)<br>2006年 IAサーバ統計最大台数 (45万台)<br>2008年 「サーバグリーンIT専門委員会」設立 | <運用・システム統合による効率化の推進><br>Windows Server2000リリース<br>911テロ起点のBCP対策<br><br>仮想化統合<br>洞爺湖サミット (環境サミット)                                    |
| 2010年代 | 2013年 <u>ITプラットフォーム事業委員会</u> に改称  | <仮想化・クラウド技術の進展><br>311震災起点のBCP対策<br><br>BCP:事業継続計画 (Business continuity planning)   |

## 目次

- I. サーバの出荷動向から見た仮想化システムの利用動向**
  
- II. ユーザ部門主体の I T 導入状況**
  
- III. ビッグデータやクラウドコンピューティングへの取り組み動向**

＜プラットフォーム市場専門委員会 発表＞



I. サーバの出荷動向から見た仮想化システムの利用動向

---

## ITトレンド調査

### ■ 調査目的

- 経営革新・競争力強化のためにITソリューションの活用・注目度が増す中、どのようにユーザ様の実現しているかを調査し、今後の企業情報システム構築に役立てることを目的とする。

### ■ 調査実施時期：2015年12月実施

### ■ 調査結果考察の特徴

- 同様の調査を1999年度から継続的に実施しており、ユーザのシステムがどのように変化したか、あるいは意識が変わったかの考察もしている。
- なお、今回は、IoTやSDx（Software-Defined anything）の活用状況についても調査実施した。

# ITトレンド調査

- 301件のアンケート回答
- 業種、事業体規模は下記のとおり

単位：サンプル数

| 業種               | 従業員規模     |         |         |          |          |           |  |
|------------------|-----------|---------|---------|----------|----------|-----------|--|
|                  | 全体        | 50名未満   | 50～299名 | 300～999名 | 1000名以上  | うち5000名以上 |  |
| 全体               | 301(100%) | 14( 5%) | 72(24%) | 94(31%)  | 121(40%) | 49(16%)   |  |
| 建設業／製造業          | 109( 36%) | 1       | 28      | 31       | 49       | 22        |  |
| 流通・サービス業         | 97( 32%)  | 8       | 23      | 38       | 28       | 3         |  |
| 金融／保険／証券         | 26( 9%)   | 2       | 4       | 7        | 13       | 7         |  |
| 公益(運輸・通信・メディア含む) | 29( 10%)  | 2       | 6       | 5        | 16       | 9         |  |
| 公共               | 40( 13%)  | 1       | 11      | 13       | 15       | 8         |  |

(注)過去のアンケートでは、100名以下企業の情報を収集していない場合があり、経年比較の場合は、100名以下企業の回答サンプルを除いて比較する場合がある。

## サーバの出荷統計 <当委員会で集計している特色>

- 参画会社各社の実績データそのものを集計したもので予測・推測は一切含まれていない。
- 過去から継続してデータを収集し、統計を実施。
- 月単位でのOS機種別、価格クラス別での自主統計を実施し、四半期単位で機種別の実績を公表。
- 半期単位でOS機種別、価格クラス別、産業別の出荷実績を算出し、公表。
- 出荷金額はハードウェアシステム（本体、磁気ディスク装置等の周辺機器）および基本ソフトウェア関連の範囲とし、ユーザ固有のアプリケーションソフトウェア金額や保守料金は含まない。

# 平成27年度 総出荷実績

IAサーバは台数、金額ともに前年を上回りサーバ全体の需要を牽引

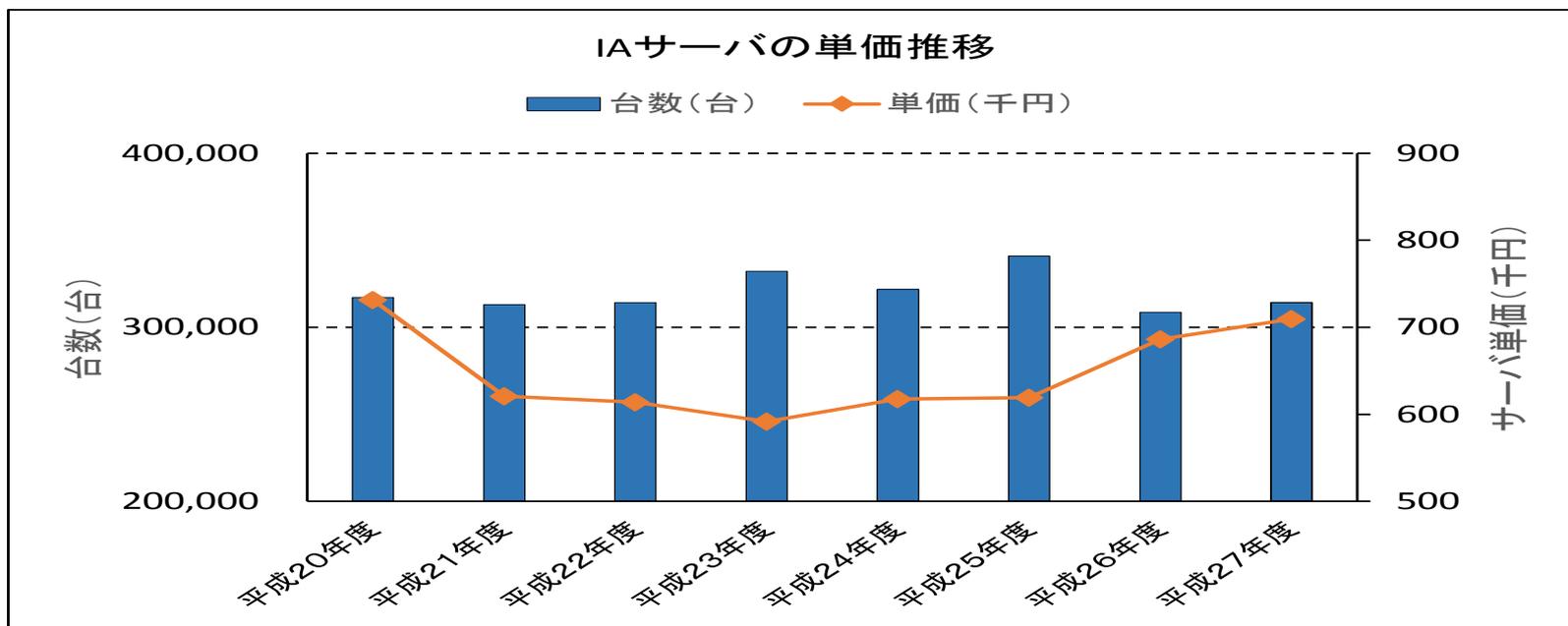
(単位:台、百万円)

| 総出荷       |    |         | 平成27年度上半期 |         | 平成27年度下半期 |         | 平成27年度 |     |
|-----------|----|---------|-----------|---------|-----------|---------|--------|-----|
|           |    |         |           | 前同比     |           | 前同比     |        | 前同比 |
| IAサーバ     | 台数 | 149,531 | 104%      | 164,611 | 100%      | 314,142 | 102%   |     |
|           | 金額 | 103,058 | 107%      | 119,796 | 104%      | 222,854 | 105%   |     |
| UNIXサーバ   | 台数 | 2,552   | 93%       | 2,432   | 73%       | 4,984   | 82%    |     |
|           | 金額 | 20,851  | 81%       | 28,737  | 78%       | 49,588  | 79%    |     |
| オープンサーバ合計 | 台数 | 152,083 | 104%      | 167,043 | 99%       | 319,126 | 101%   |     |
|           | 金額 | 123,909 | 102%      | 148,533 | 98%       | 272,442 | 99%    |     |
| メインフレーム   | 台数 | 109     | 101%      | 128     | 75%       | 237     | 85%    |     |
|           | 金額 | 21,497  | 112%      | 22,914  | 62%       | 44,411  | 79%    |     |
| 独自OSサーバ他  | 台数 | 236     | 126%      | 255     | 94%       | 491     | 107%   |     |
|           | 金額 | 1,674   | 97%       | 1,781   | 80%       | 3,455   | 88%    |     |

## IAサーバの単価推移

平成24年度から、IAサーバ単価はアップする傾向にある。

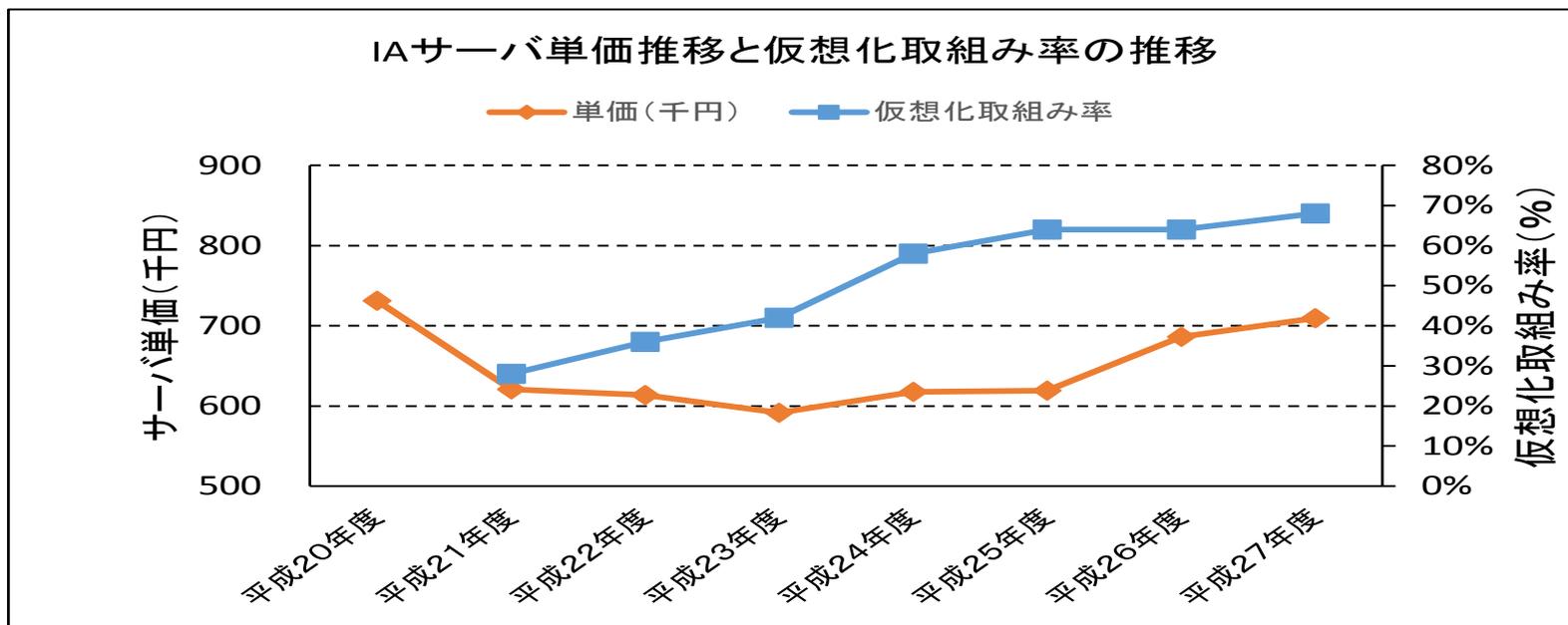
|         | 平成20年度  | 平成21年度  | 平成22年度  | 平成23年度  | 平成24年度  | 平成25年度  | 平成26年度  | 平成27年度  |
|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 金額(百万円) | 231,905 | 194,362 | 192,890 | 196,541 | 198,655 | 211,021 | 211,818 | 222,854 |
| 台数(台)   | 317,132 | 313,097 | 314,259 | 332,242 | 321,678 | 340,889 | 308,680 | 314,142 |
| 単価(千円)  | 731     | 621     | 614     | 592     | 618     | 619     | 686     | 709     |
| 仮想化取組み率 |         | 28%     | 36%     | 42%     | 58%     | 64%     | 64%     | 68%     |



## IAサーバの単価と仮想化取組み率の推移

IAサーバ単価アップとともに、仮想化取組み率もアップしている。

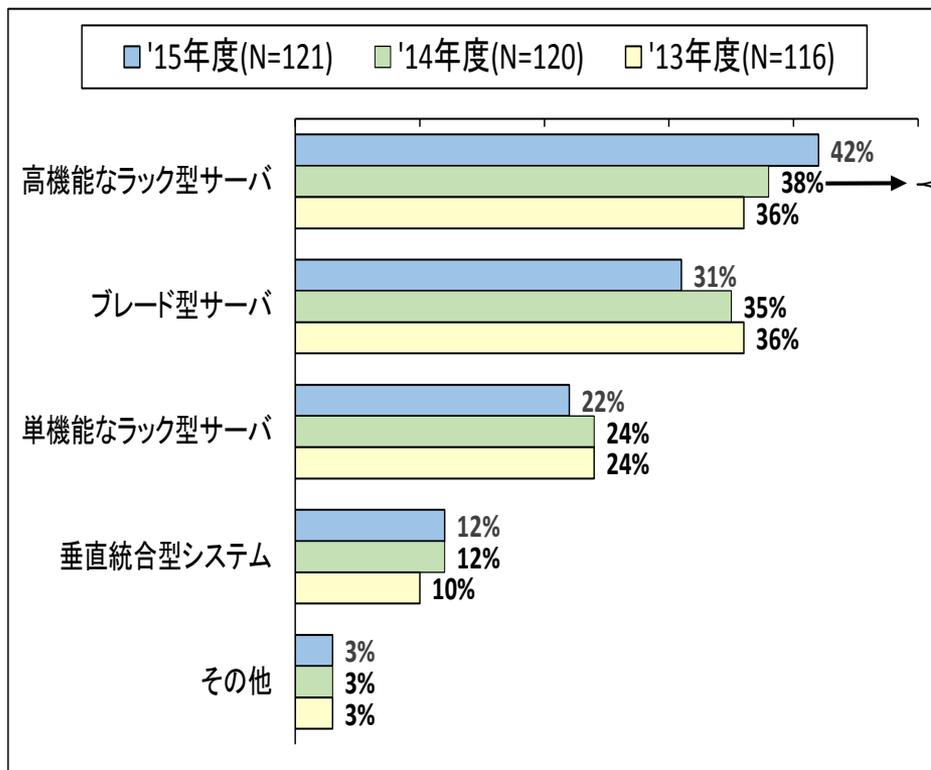
|         | 平成20年度  | 平成21年度  | 平成22年度  | 平成23年度  | 平成24年度  | 平成25年度  | 平成26年度  | 平成27年度  |
|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 金額(百万円) | 231,905 | 194,362 | 192,890 | 196,541 | 198,655 | 211,021 | 211,818 | 222,854 |
| 台数(台)   | 317,132 | 313,097 | 314,259 | 332,242 | 321,678 | 340,889 | 308,680 | 314,142 |
| 単価(千円)  | 731     | 621     | 614     | 592     | 618     | 619     | 686     | 709     |
| 仮想化取組み率 |         | 28%     | 36%     | 42%     | 58%     | 64%     | 64%     | 68%     |



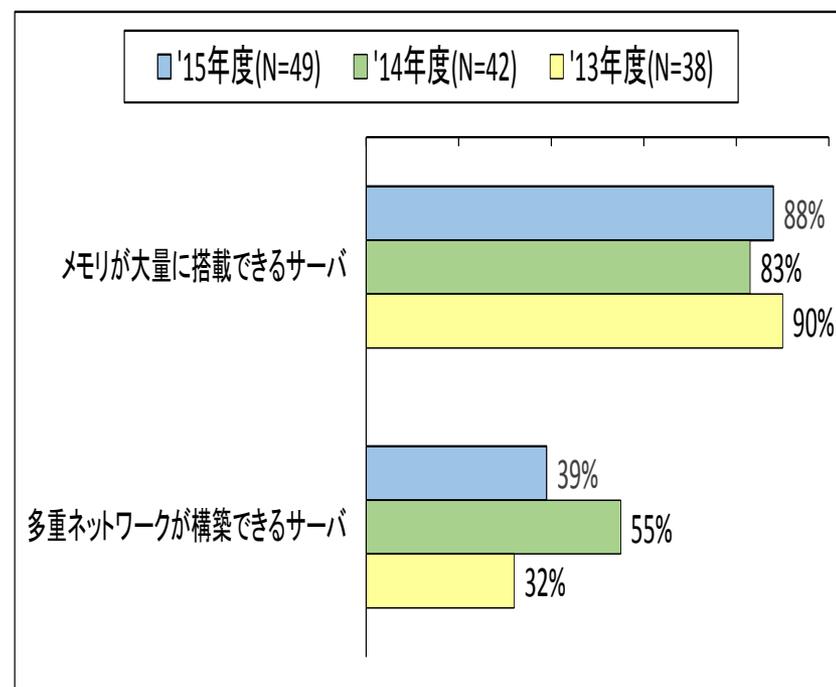
# 仮想化システムに望まれるサーバ

- 「高機能なラック型サーバ」（メモリが大量搭載できるサーバ）が望まれている。

(MA)



<高機能サーバに求める機能> (MA)



## 2015年度の仮想化サーバの割合

- 2015年度購入サーバ（物理サーバ）における仮想化用途の割合と、そのサーバ上で動く仮想OSの割合から、購入サーバと稼動OSの割合を試算。
- 2015年度購入された物理サーバに対して、2.1倍のOS（稼動システム）が動いているとの推計結果を得た。常に2倍程度となっている。

### <2015年度購入した物理サーバにおける仮想サーバ稼動割合>

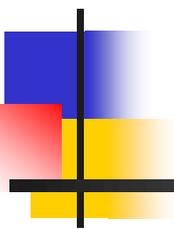
|                        | '15年度<br>購入台数<br>(物理台数) | 仮想化用途<br>台数<br>B | 仮想化用途<br>利用率<br>C=B/A | 物理1台当り<br>仮想OS数<br>D | 仮想            | 稼動OS総台数<br>(物理+仮想)<br>F=(A-B)+E | 物理台数に対する<br>実効OS稼動台数<br>G=F/A |
|------------------------|-------------------------|------------------|-----------------------|----------------------|---------------|---------------------------------|-------------------------------|
|                        |                         |                  |                       |                      | サーバ数<br>E=B×D |                                 |                               |
| メインフレーム/オフコン (N= 15)   | 27台                     | 7台               | 26%                   | 5.0                  | 35台           | 55台                             | 2.0倍                          |
| UNIXサーバ (N= 28)        | 249台                    | 146台             | 59%                   | 3.3                  | 482台          | 585台                            | 2.3倍                          |
| IAサーバ(Linux) (N= 37)   | 615台                    | 430台             | 70%                   | 2.7                  | 1,161台        | 1,346台                          | 2.2倍                          |
| IAサーバ(Windows) (N=141) | 1,466台                  | 570台             | 39%                   | 3.7                  | 2,109台        | 3,005台                          | 2.0倍                          |
| 合計                     | 2,357台                  |                  |                       |                      | 3,787台        | 4,991台                          | 2.1倍                          |

2014年度調査 2.8倍

2013年度調査 2.1倍

2012年度調査 2.0倍

＜プラットフォーム市場専門委員会 発表＞



## Ⅱ. ユーザ部門主体の I T 導入状況

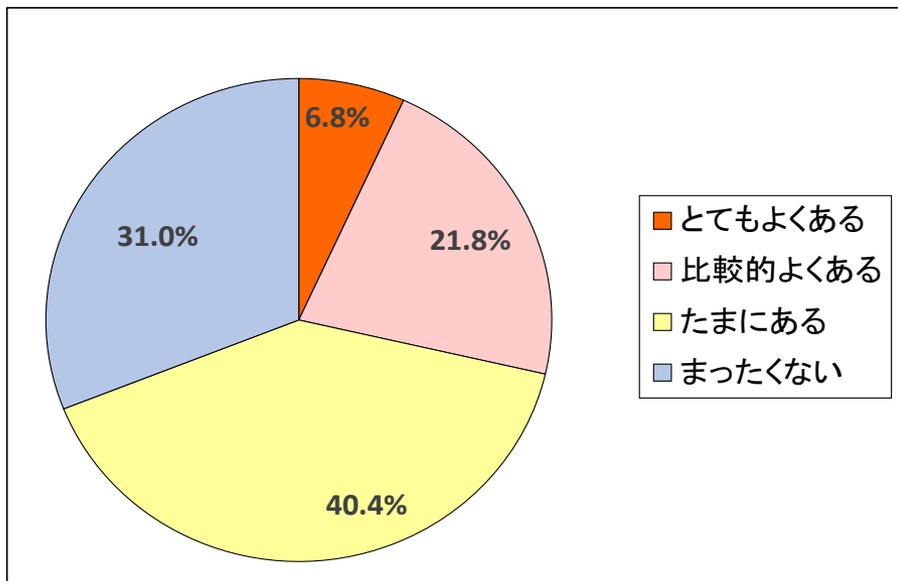
---

## ユーザ部門主体のIT導入状況と増減傾向

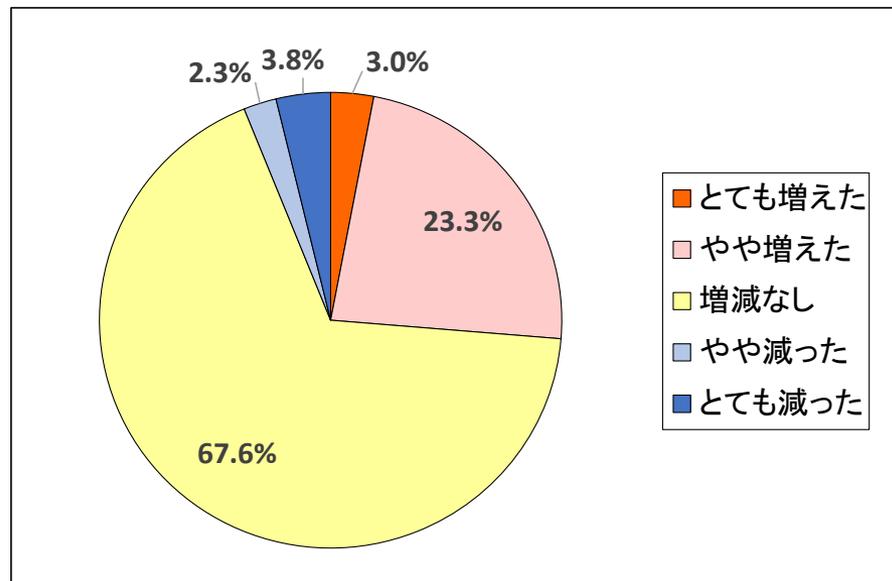
IT導入は情シ部門ではなく、ユーザ部門単独での導入する傾向にあり、その動向を調査

- 「ユーザ部門主体のIT導入」は、約28%が「ある」との回答
- 「ユーザ部門主体のIT導入」が「増えてきている」との回答は約27%。

＜ユーザ部門主体のIT導入状況＞ N=400、SA



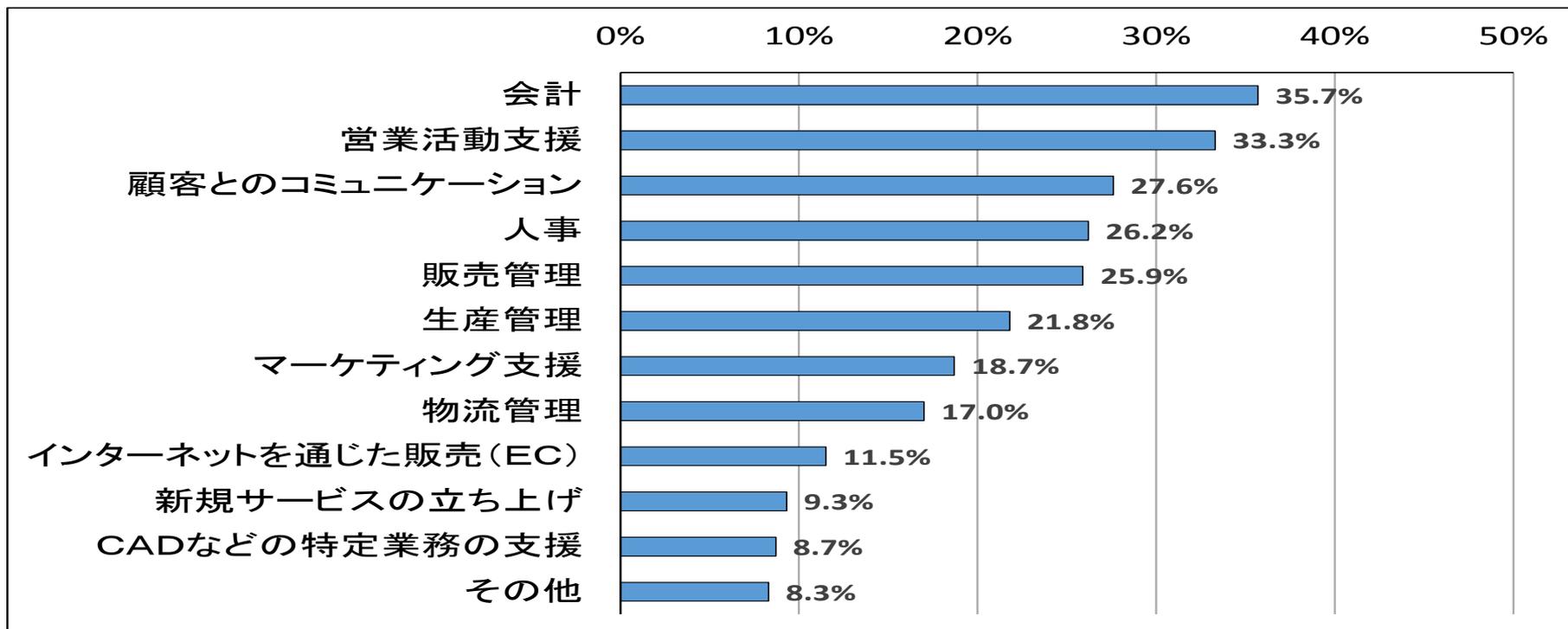
＜ユーザ部門主体のIT導入の増減＞ N=400、SA



## ユーザ部門主体のIT業務分野

- 「会計」「営業活動支援」「顧客とのコミュニケーション」の順であった。
- 「会計」は、300人以下の企業ユーザ（回答49%）が牽引。
- 「営業活動支援」は、金融関係（58.3%）と、利用が高い。

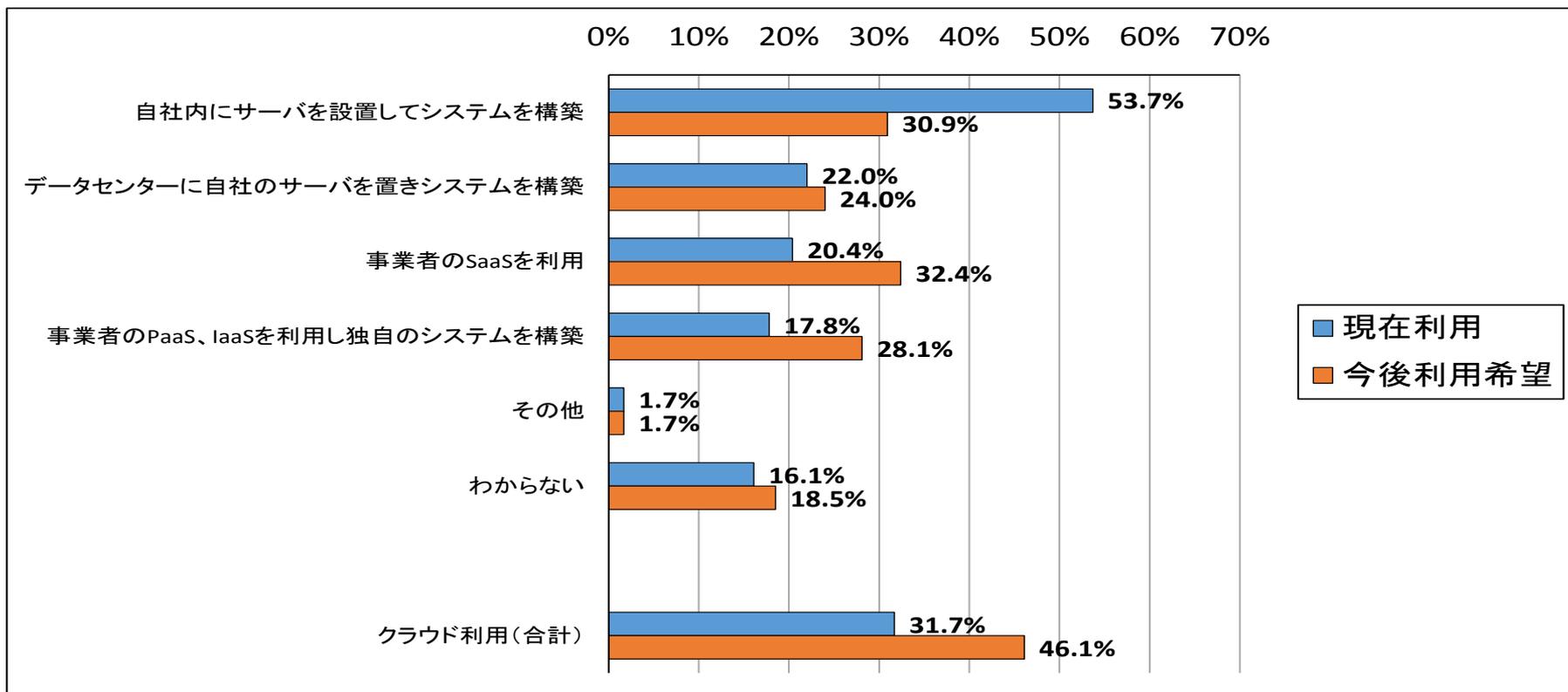
N=583,MA



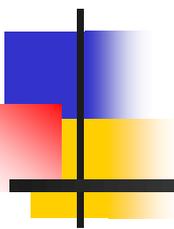
## ユーザ部門主体システムの利用プラットフォーム

- 現在は、社内設置のサーバでの利用が最も多い。
- 今後は、クラウドを利用する意向が強い。

N=583, SA



＜プラットフォーム企画専門委員会 発表＞



Ⅲ. ビッグデータやクラウドコンピューティングへの取組み動向

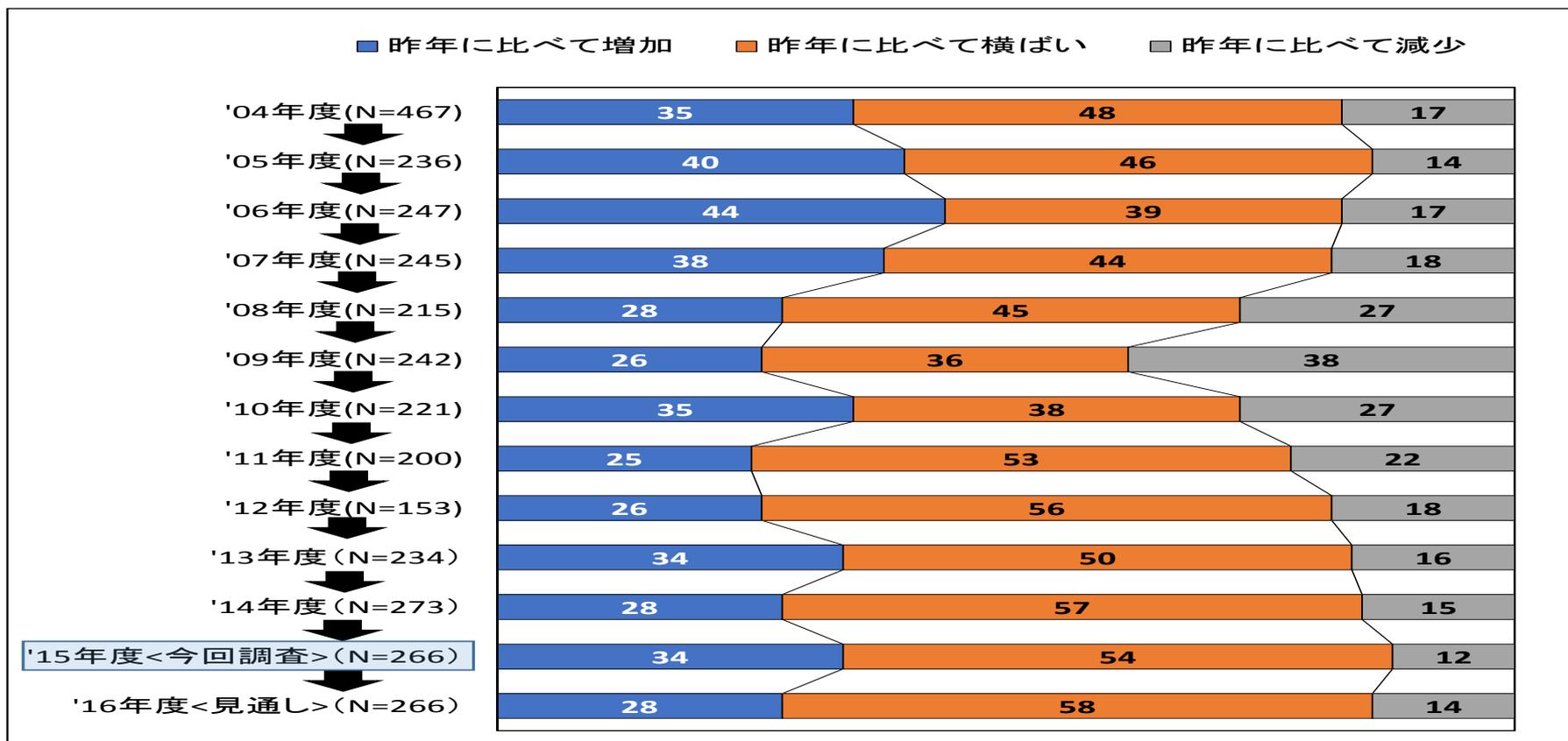
---

## 2015年における投資スタンスと投資予算推移

- 2015年は昨年より増加のケースが増え、減少のケースが減ったため、堅調な推移となった。

### <IT投資予算の推移>

不明除く、%、(SA)



## IT化関連テーマの注目度

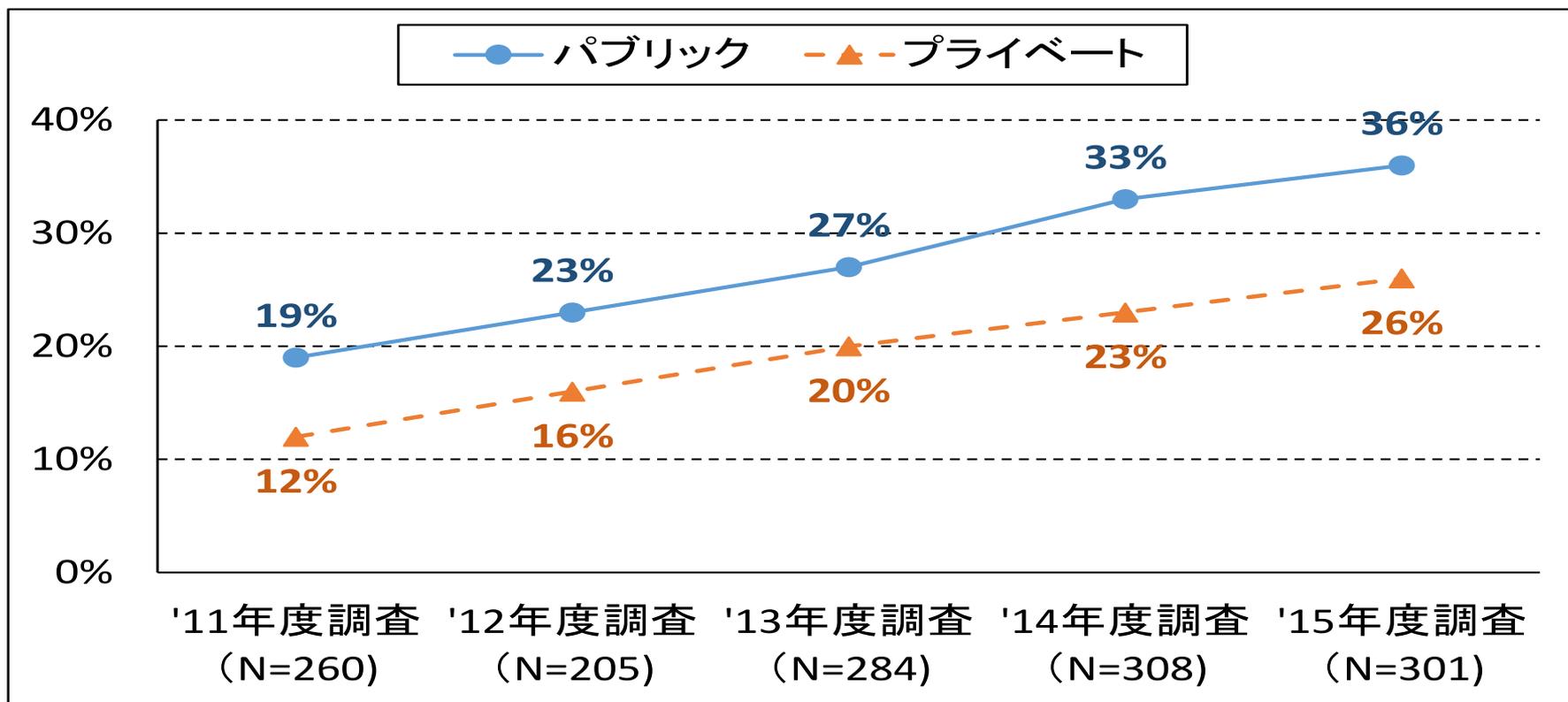
- 昨今のサイバー攻撃話題により「ネットワークセキュリティ」がさらに高まっている。
- 「仮想化システム構築」「共有ストレージ構築」の取り組みが進む。
- 「ビッグデータの活用」はまだ注目度、取組度も低いが徐々に高まりを示している。

(MA)

| 順位 | 注目度が「やや高い」以上と答えた項目         | '13年度<br>(N=284) | '14年度<br>(N=308) | '15年度<br>(N=301) | 取組済   |       |
|----|----------------------------|------------------|------------------|------------------|-------|-------|
|    |                            |                  |                  |                  | '14年度 | '15年度 |
| 1  | ネットワークセキュリティ               | 56%              | 57%              | 62% ↗            | 51%   | 54%   |
| 2  | 運用コストの削減                   | 58%              | 59%              | 57% ↘            | 30%   | 30%   |
| 3  | 自然災害や事故に対するシステム強化対策        | 53%              | 48%              | 47% ↘            | 34%   | 40% ↗ |
| 4  | サーバ統合化                     | 49%              | 47%              | 46% ↘            | 50%   | 52%   |
| 5  | システムの統合化                   | 47%              | 49%              | 46% ↘            | 31%   | 30%   |
| 6  | モバイル端末の活用                  | 47%              | 41%              | 44% ↗            | 30%   | 38% ↗ |
| 7  | 仮想化システムの構築                 | 43%              | 40%              | 42% ↗            | 45%   | 50% ↗ |
| 8  | 共有ストレージの構築                 | 46%              | 40%              | 40%              | 40%   | 46% ↗ |
| 9  | クラウド活用によるITの「所有」から「活用」への検討 | 37%              | 38%              | 39% ↗            | 23%   | 27%   |
| 10 | 外部DC(データセンタ)の活用            | 32%              | 29%              | 27% ↘            | 40%   | 45% ↗ |
| 11 | ITアウトソーシングの活用              | 27%              | 25%              | 27% ↗            | 29%   | 31%   |
| 12 | ビジネスインテリジェンス(BI)の活用        | 25%              | 25%              | 25%              | 25%   | 25%   |
| 13 | ビッグデータの活用                  | 20%              | 22%              | 24% ↗            | 7%    | 13% ↗ |
| 14 | システムの省電力化                  | 21%              | 23%              | 18% ↘            | 22%   | 23%   |

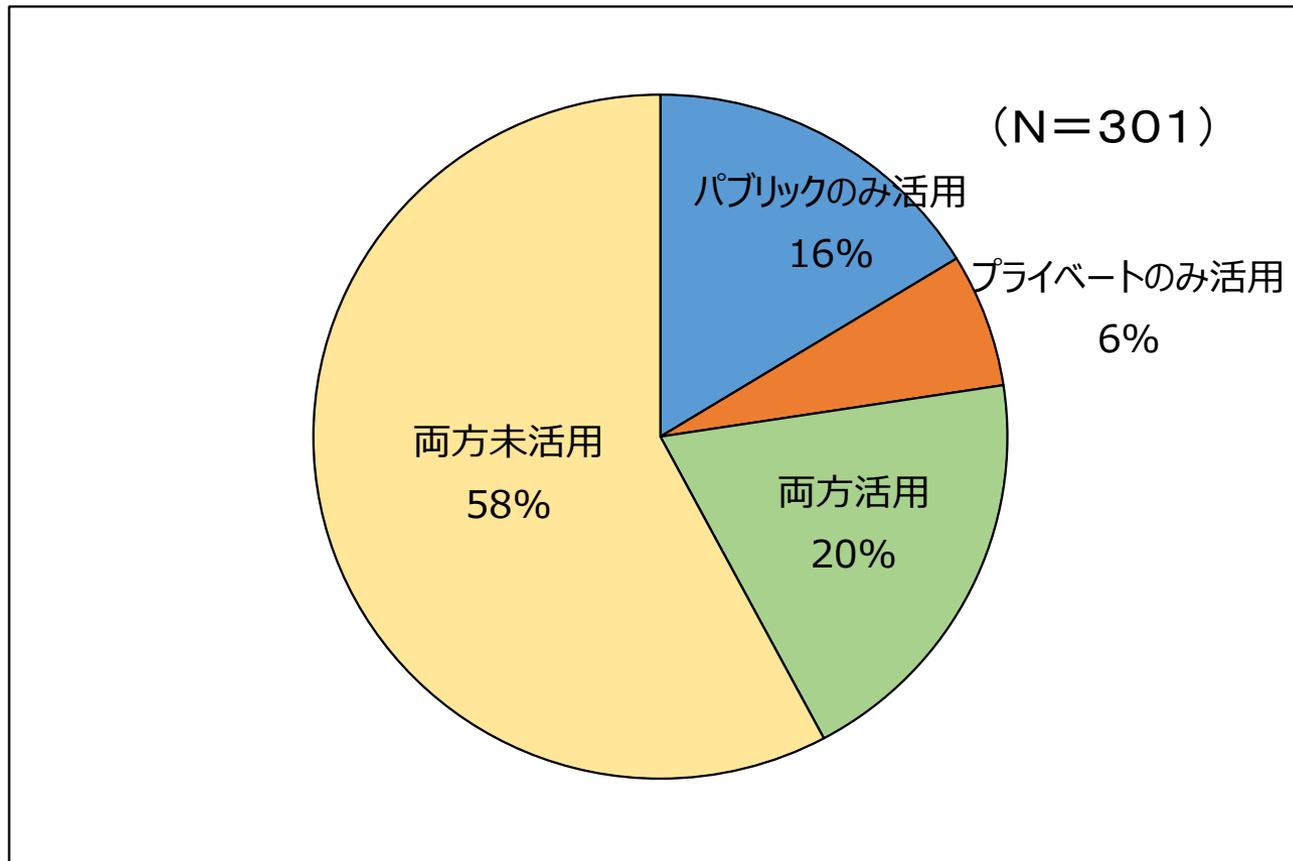
## クラウドサービスの利用状況

- パブリック、プライベートともに年々利用率は増加している。



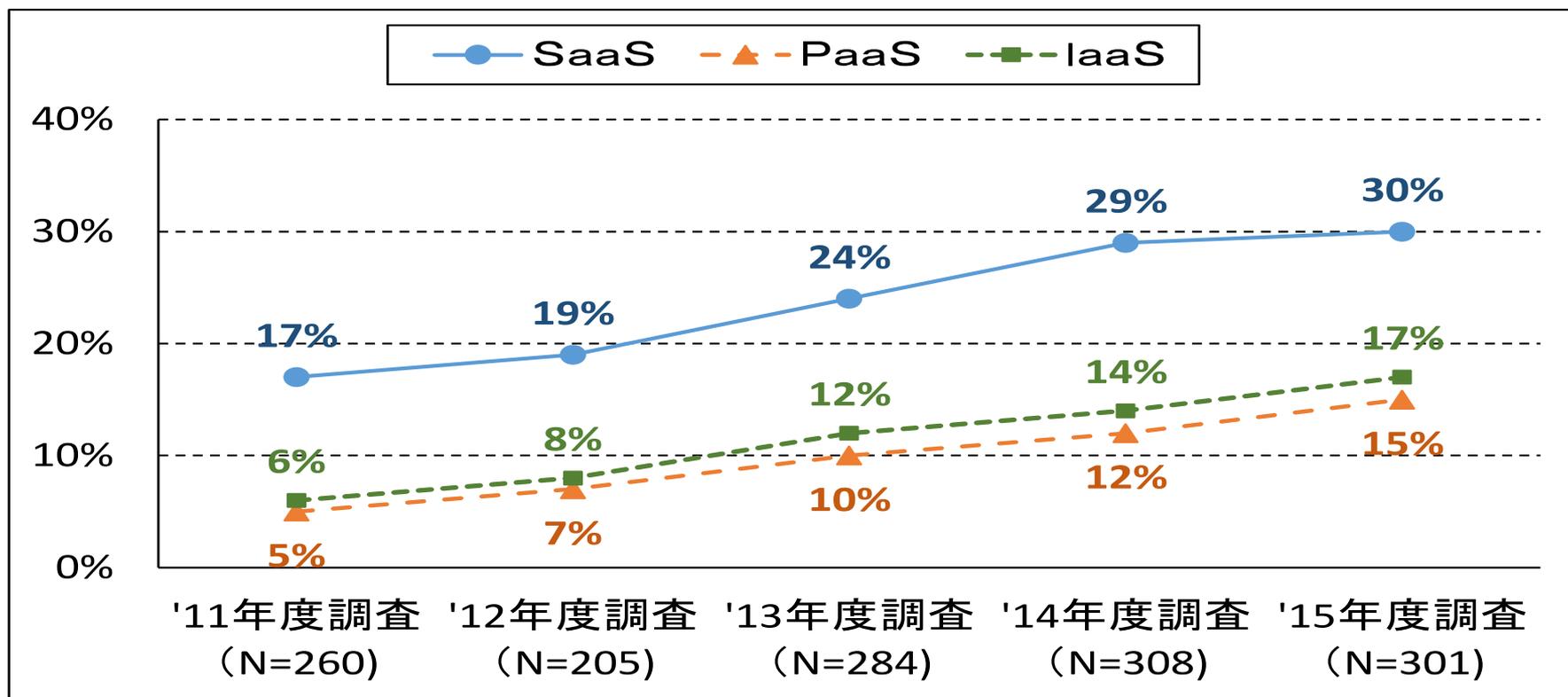
## パブリックとプライベートの併用利用状況

- 両方を活用しているパターンが多い。



## パブリッククラウドのサービス別利用状況

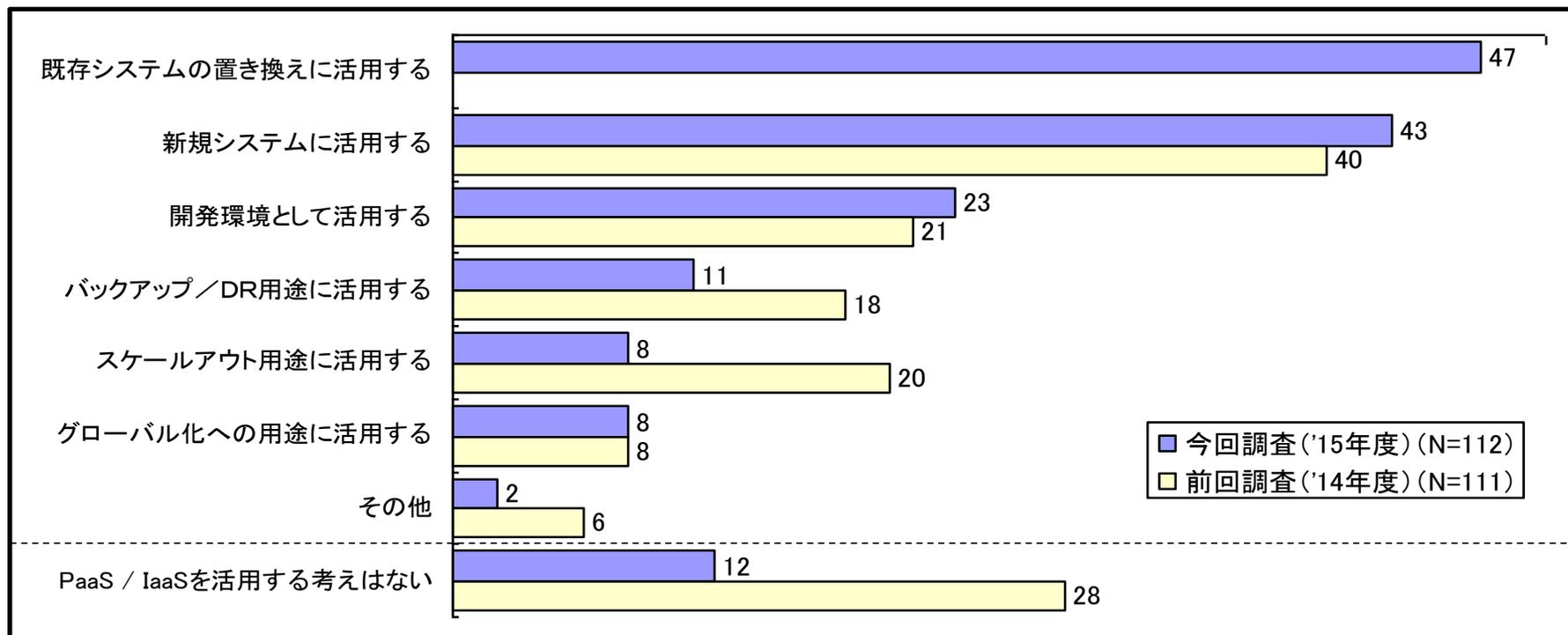
- SaaSの活用が最も高い。



## プライベートクラウドのPaaS/IaaS活用内容

- 既存システムの置き換えが47%、新規システムが43%。
- PaaS/IaaSの利用意向が増えている。

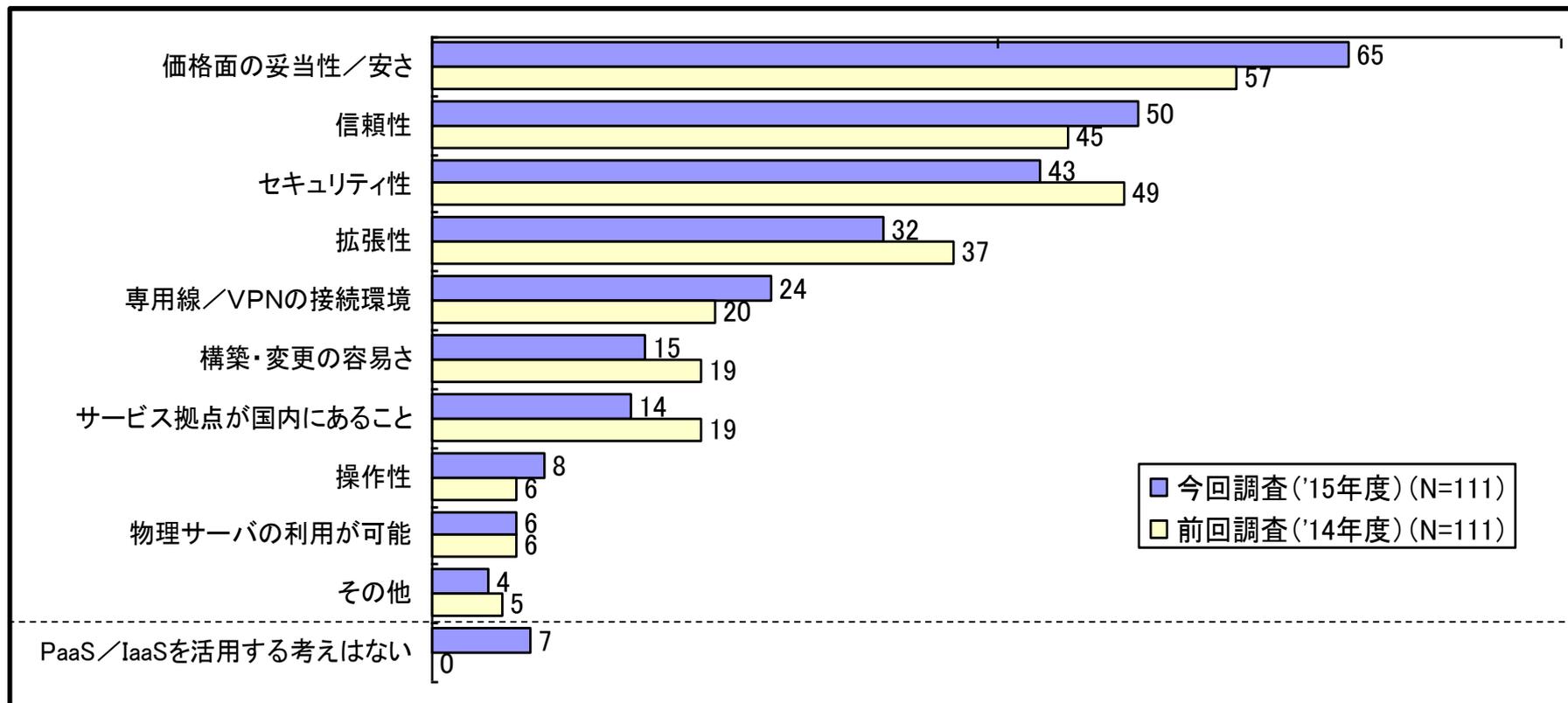
%、(MA)



## PaaS/IaaS選択基準

### ■ 価格が65%、信頼性、セキュリティ、拡張性が続く

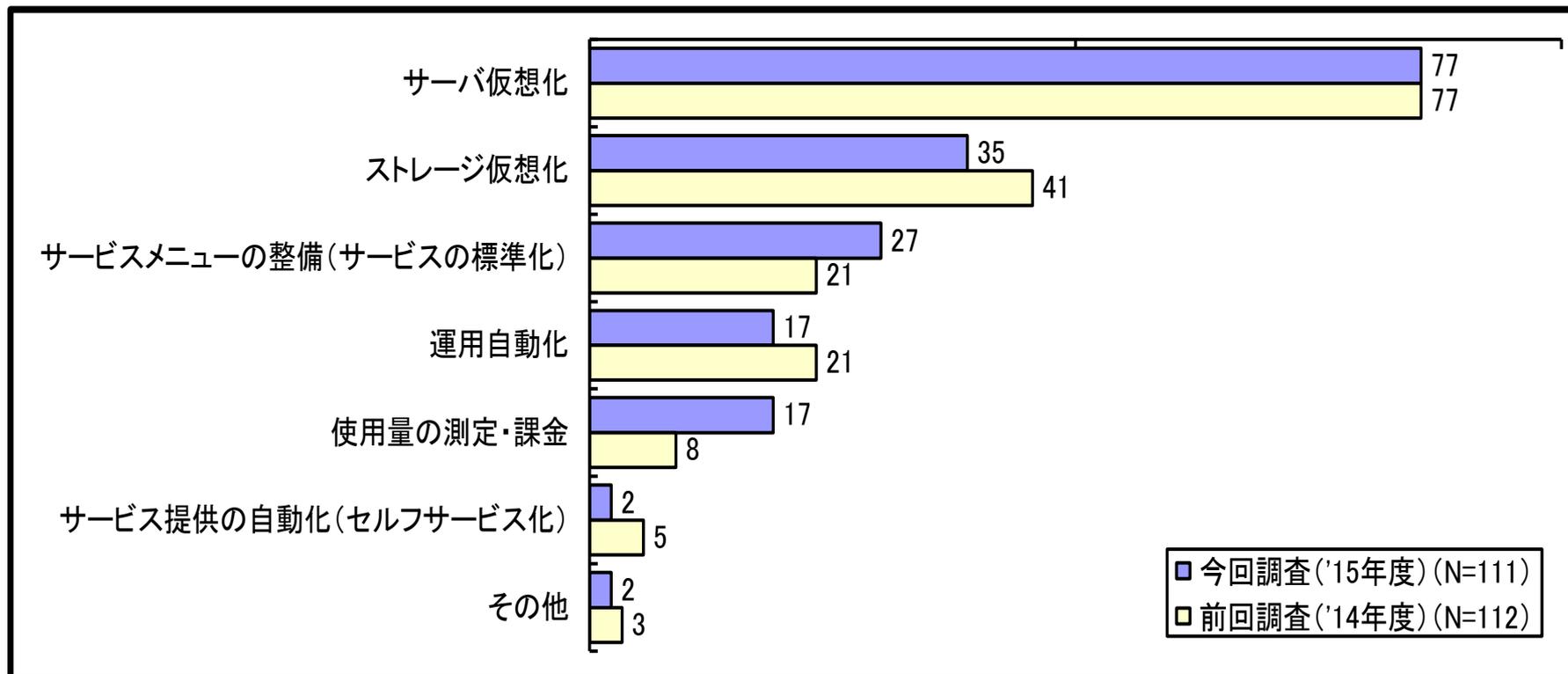
%、(MA)



## プライベートクラウド構築内容

- 「サーバ仮想化」「ストレージ仮想化」から構築する例が多い
- 「サービスメニューの整備」もある程度進んでいる

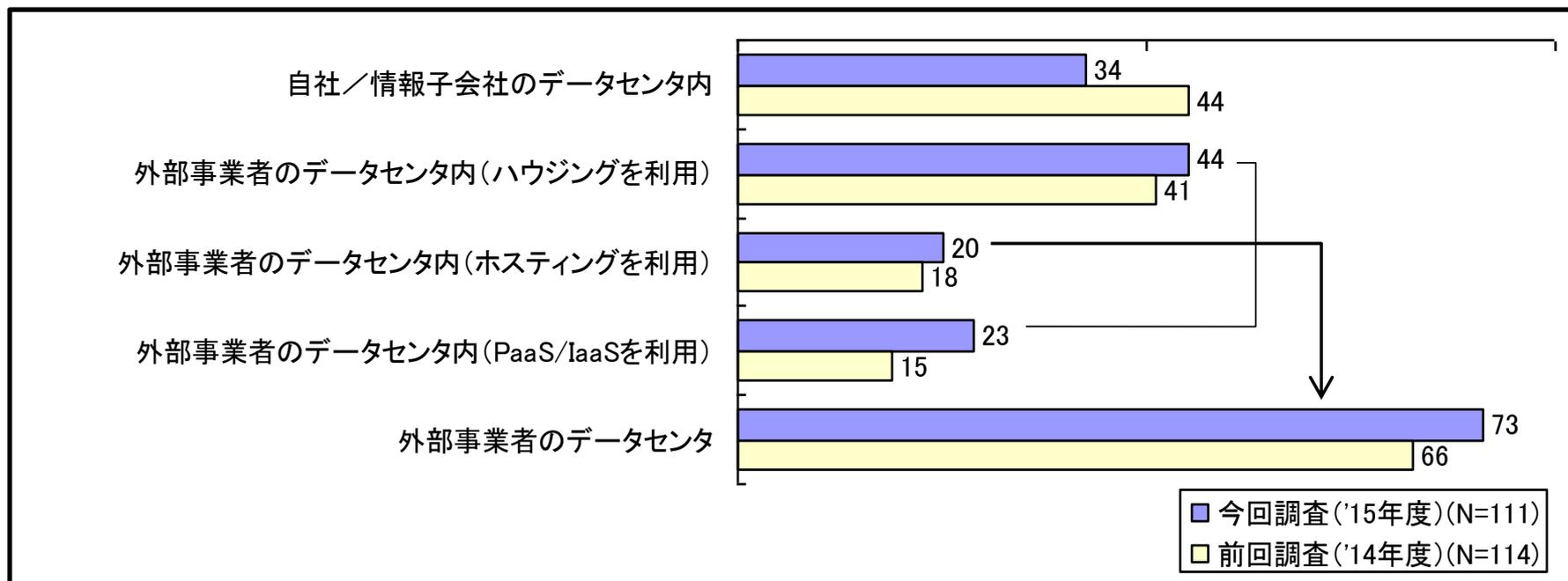
％、(MA)



## プライベートクラウドの構築環境

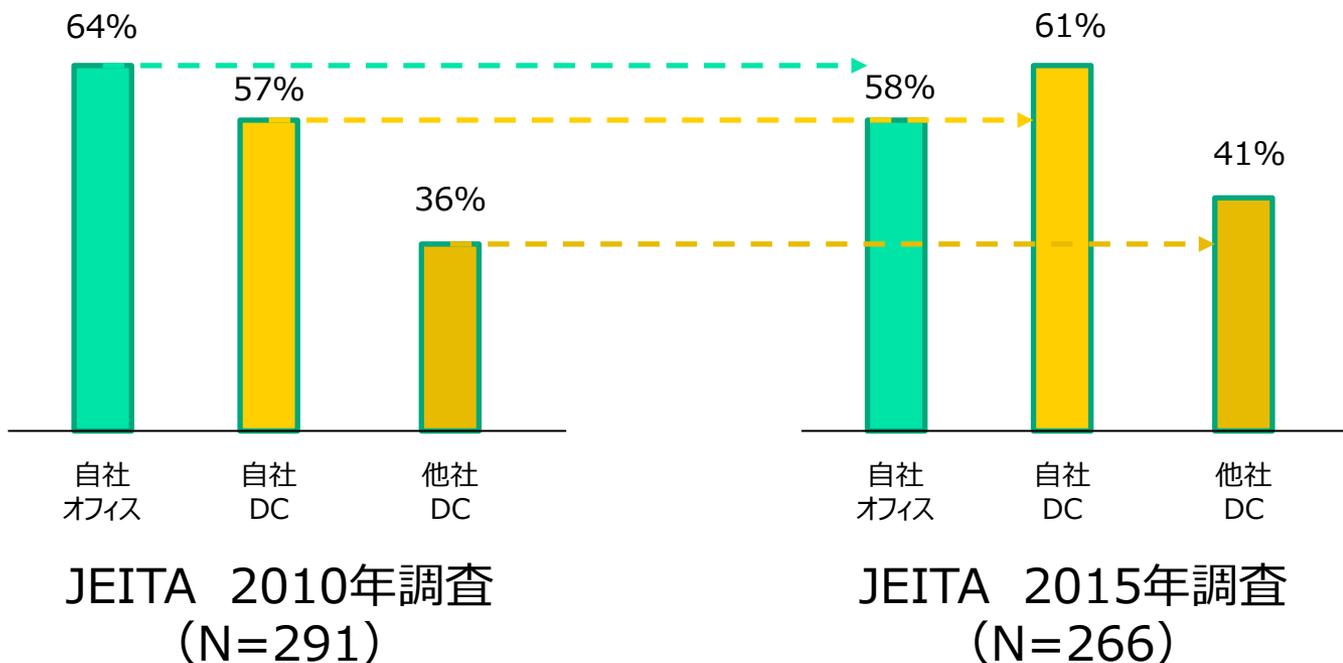
- プライベートクラウド構築済/準備中/検討中ユーザのうち、73%が外部事業者のDCを活用。
- 外部事業者のDCでは、大半がハウジングを利用(44%)、ホスティングは20%、PaaS/IaaSは23%。

％、(MA)



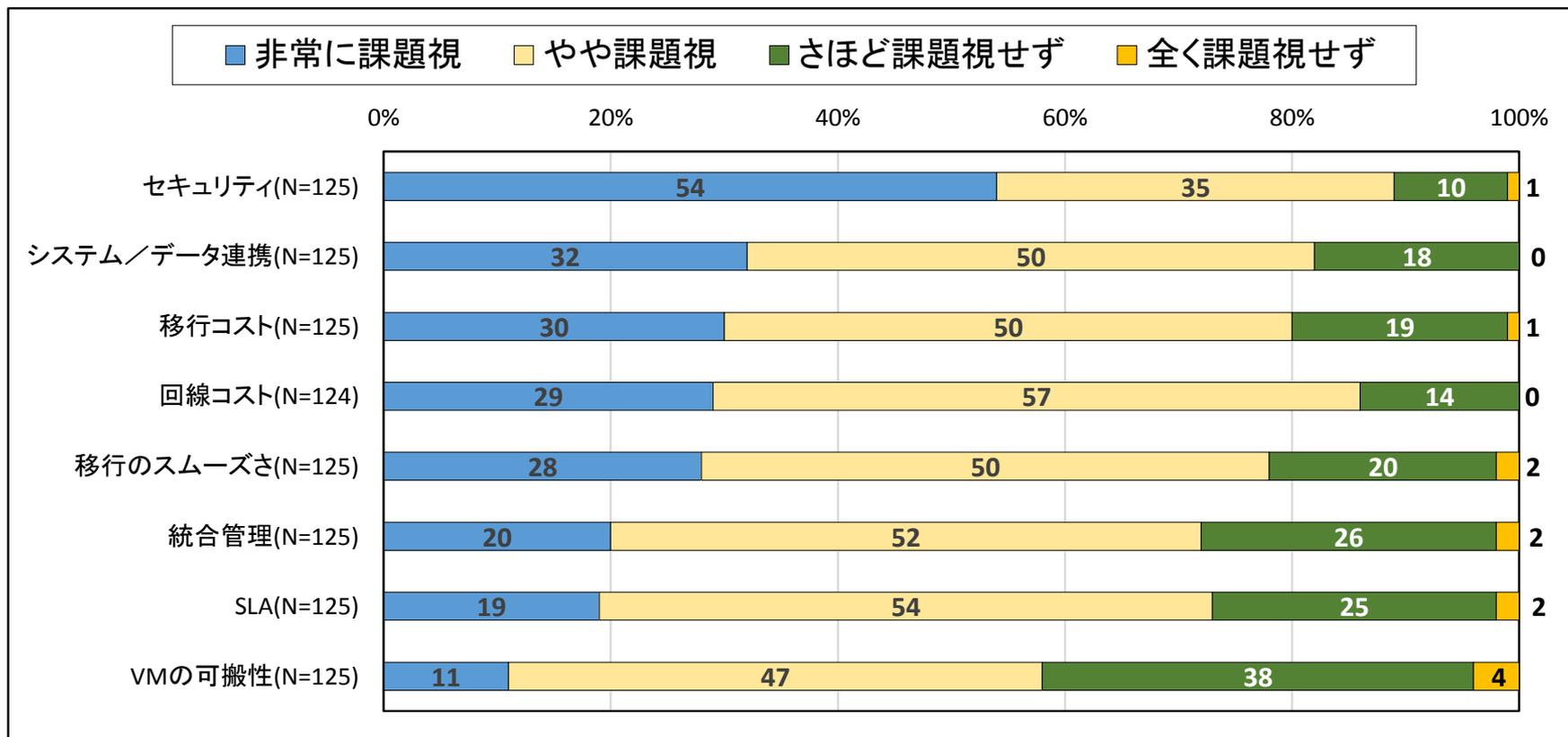
## サーバ、ストレージの設置場所(設置場所の変化)

- 自社オフィス内設置から、自社DC設置へ、また、他社DC設置へ変化している。



## オンプレミスシステム等との連携の際の課題

### ■ セキュリティ確保が課題とみている。



## SD x (Software Defined anything) の活用状況

### (1) SDN (Software Defined Network) の事例調査

#### ① 放送局の事例

- SDN導入前の課題：ポリシーが異なるNWが混在して、運用が複雑
- SDN導入後の効果：設定変更等の運用効率がアップ

#### ② 地方自治体の事例

- SDN導入前の課題：NW機器の追加等で作業負荷増
- SDN導入後の効果：各種設定変更やケーブルの追加や差し替え作業、床下の配線工事が不要となった。

## SD x (Software Defined anything) の活用状況

### (2) SDS (Software Defined Storage) の事例調査

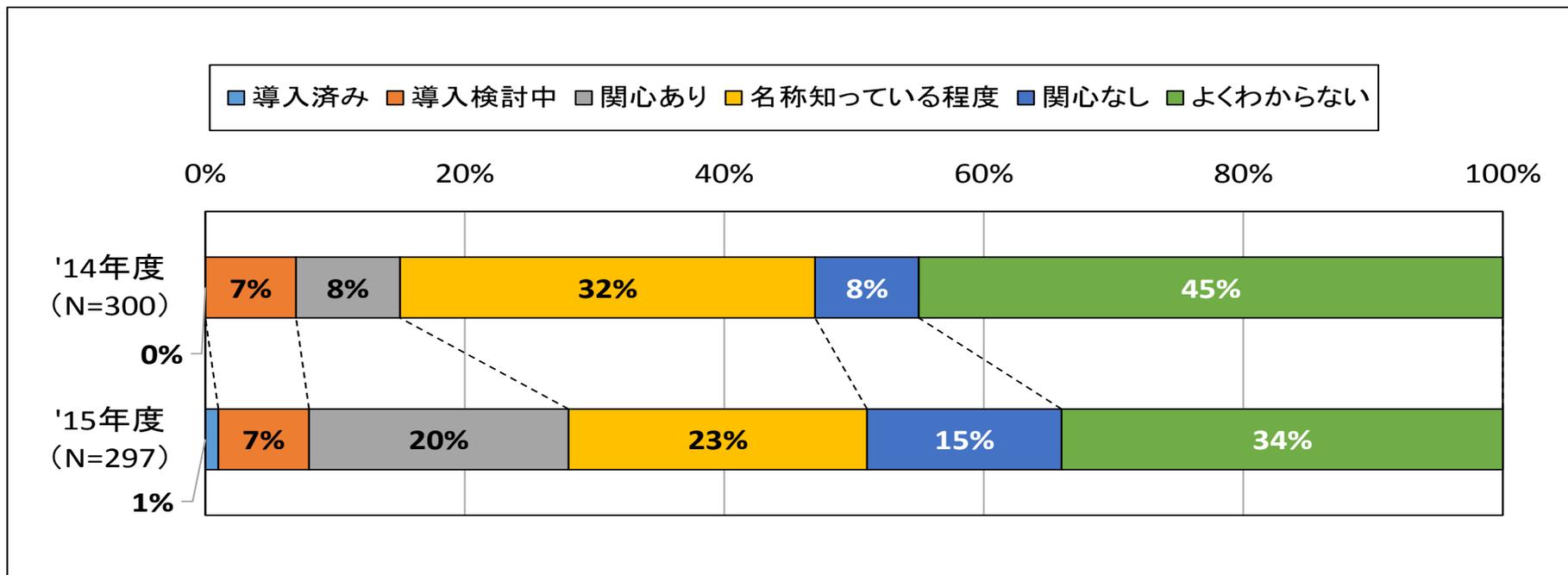
#### ① 精密機械メーカーの事例

- SDS 導入前の課題：サーバ仮想化は進められ、効率化が図られたが、ストレージ環境は見直しが進まず、ハードウェアやファイバーチャネル等の調達／運用コストが課題となっていた。（ITインフラコストの半分がストレージ）
- SDS 導入後の効果：x 8 6 サーバの内蔵ディスクを仮想的に統合して、ストレージプールとして使える製品を導入。サーバ環境とストレージ環境を一元的にコントロールできることが最大の効果。

## SD x (Software Defined anything) の活用状況

### (3) SDS (Software Defined Storage) の活用状況

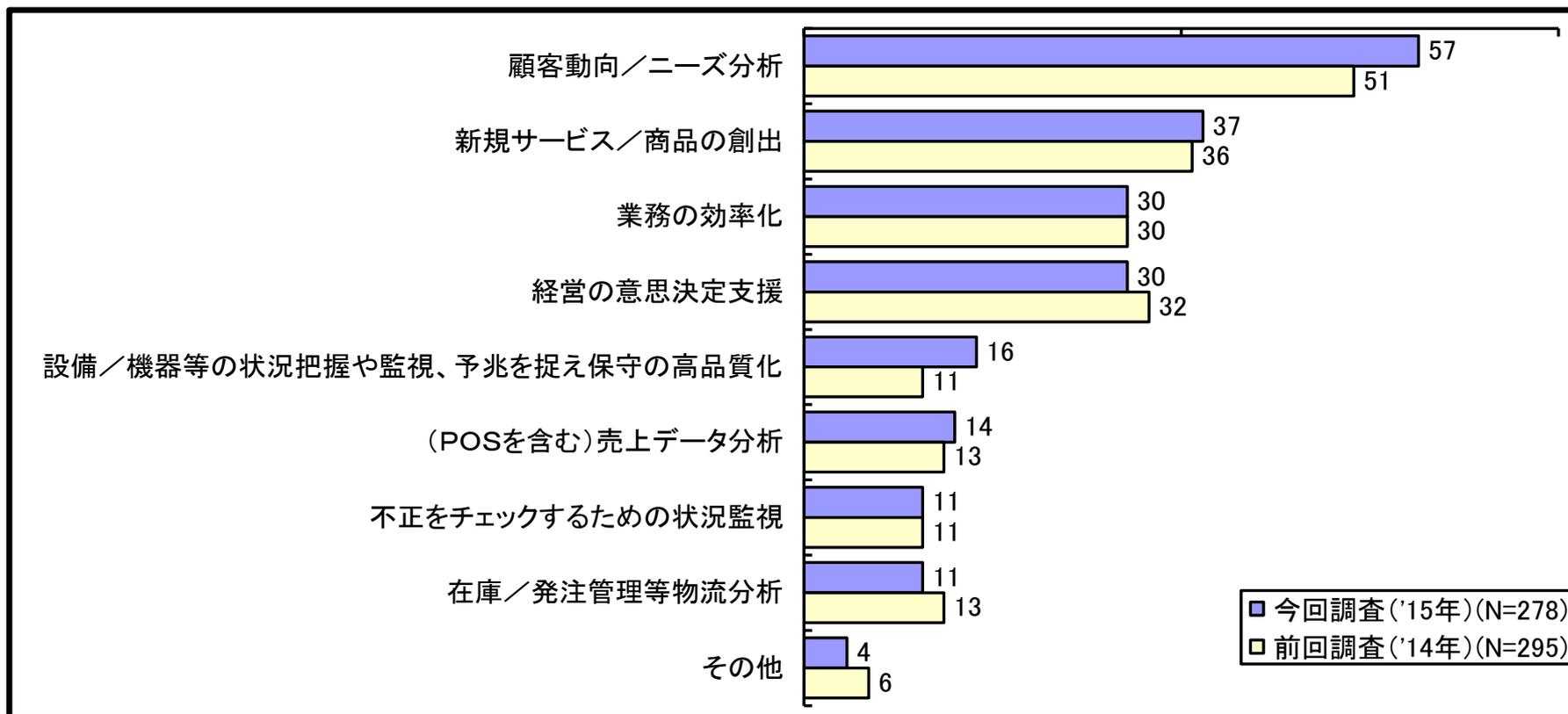
- 既活用は1%。
- 「関心あり」まで含めても28%で、まだまだ認知度は低い。



## ビッグデータの活用目的

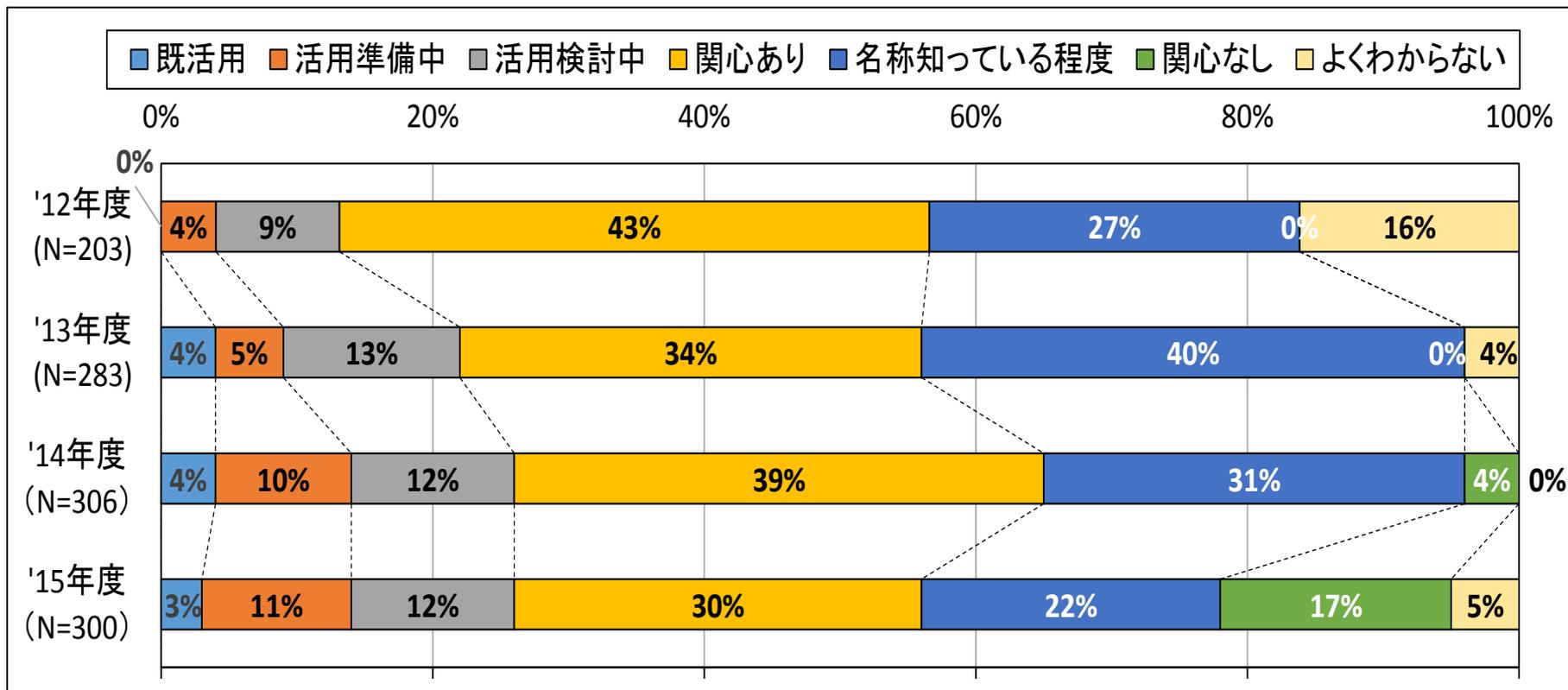
- 活用目的は、「顧客動向/ニーズ分析」が最も多く、以下「新規サービス/商品の創出」「業務の効率化」「経営の意思決定支援」が続く。

％、(MA)



## ビッグデータの活用状況

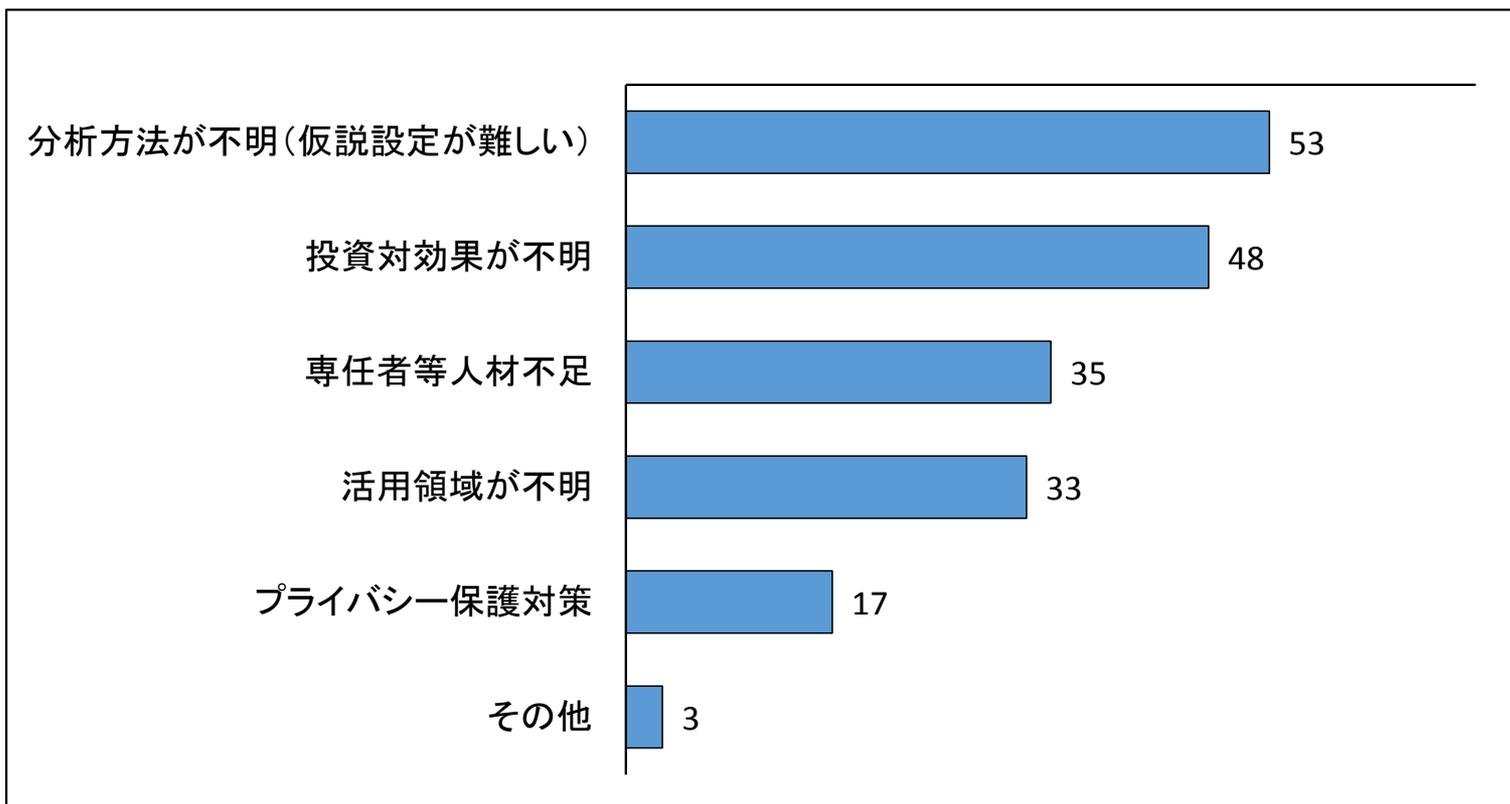
- 既活用はまだまだ低いが、検討中まで含めると約3割（26%）となっている。



## ビッグデータの活用が増えない理由

- データは集めても、分析方法（利用方法）が不明。
- そのためのデータサイエンティストがいない。

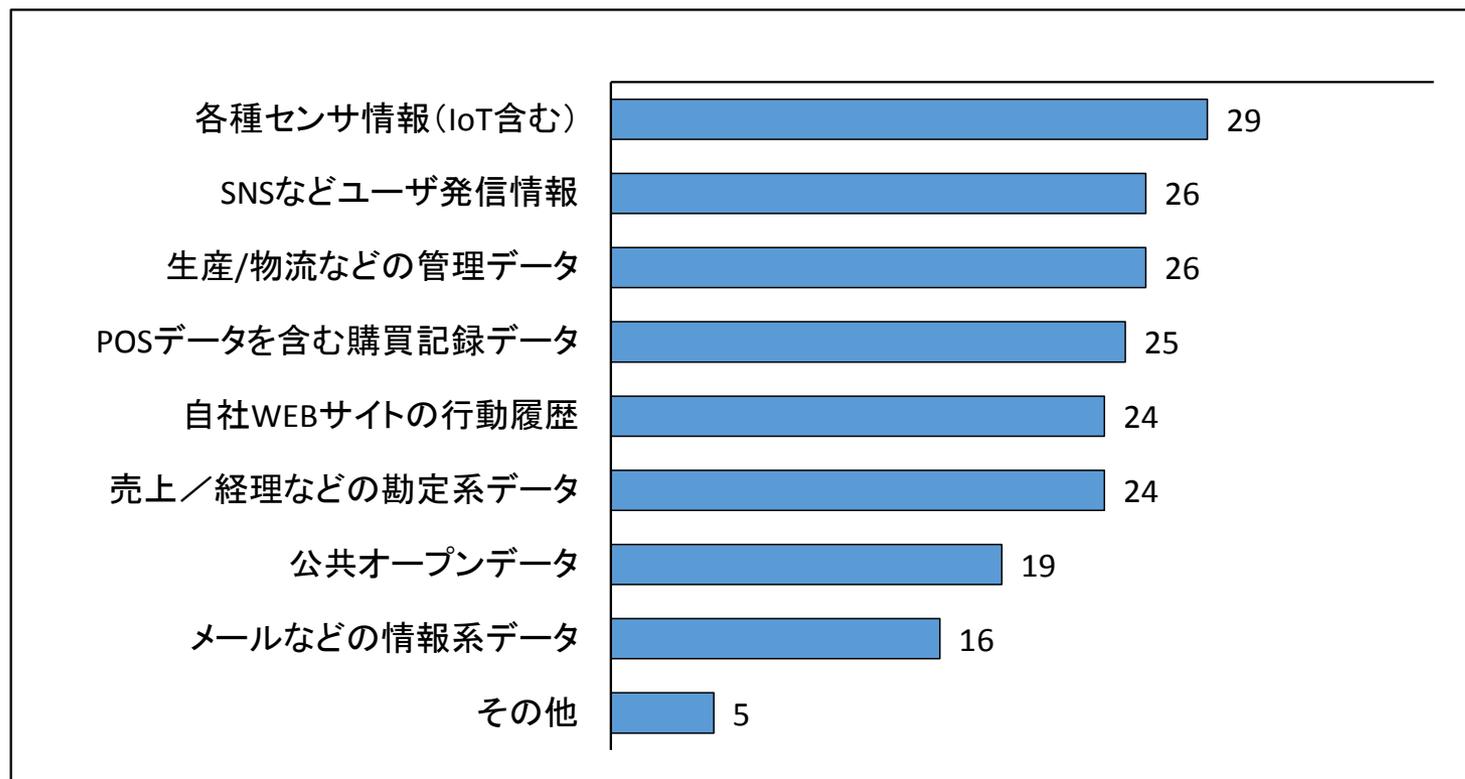
%、(MA)



## ビッグデータで活用したいデータ

- 各種センサデータの活用が高く、IoT利用とともに、そのデータ活用意向を示している。

%、(MA)



## ビッグデータ活用ユーザのヒアリング調査

### 【旅行サービス業】

＜課題＞ 旅行パッケージ情報をWEBサイトで提供していたが、WEBでの販売拡大を図ることが経営上求められた。

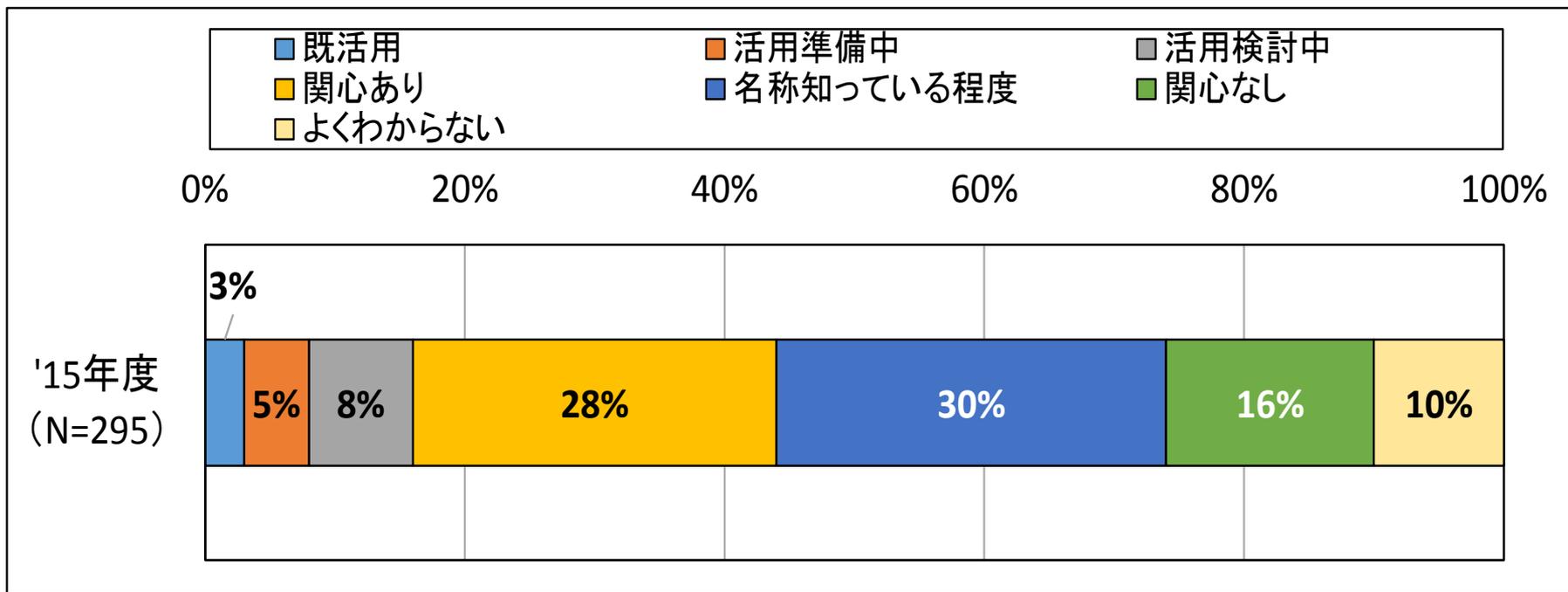
＜データの活用＞ 2010年12月設立のWEB販売部にて、WEBでの「顧客の見える化」を図るため、データ分析業務に着手し、1年後の2011年11月にアクセスログ収集できるシステム整備ができ、顧客動向を掴めるようになった。

＜ビッグデータ活用で苦労している点＞ 顧客動向は把握できるようになったが、それに伴いアクセスログのデータベースの更新が必要となっている。（たぶん、新たな購買動向分類などの区分追加など？）よって、分析者や活用担当者の作業増加となっている。「自動化」機能がほしい。

＜今後の課題＞ 購買予測をより精度を高めて予測できる仕組みを整えたい。  
現時点では、WEBサイトのデータだけであるが、WEBサイト以外のビッグデータとの連携も検討してゆきたい。

## IoTの活用状況

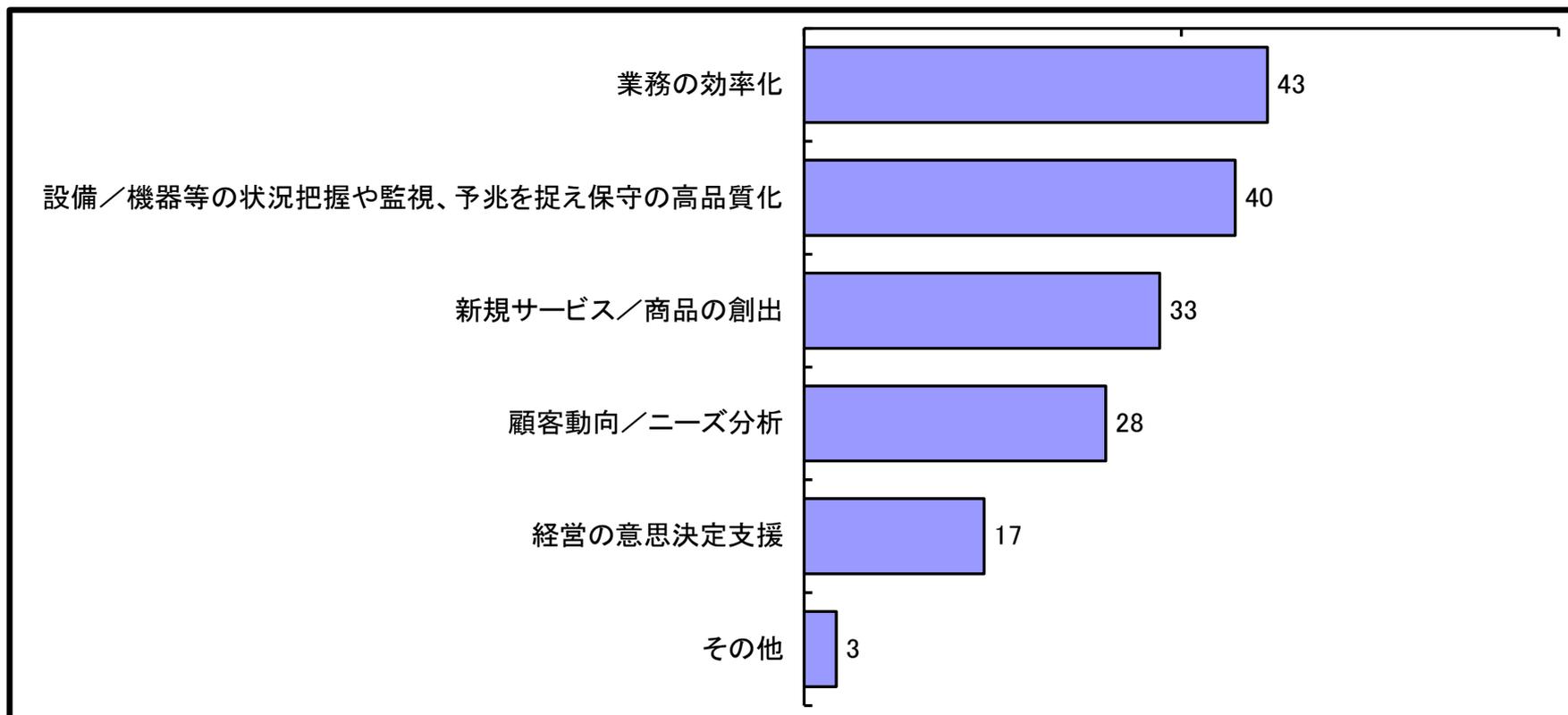
- 既活用は3%。
- 検討中まで含めると16%となっている。



## IoTの活用領域

- IoTは、「業務の効率化」「設備／機器等の状況把握や監視」へのニーズが高い。

N=126、%、(MA)



## IoT活用ユーザのヒアリング調査（1 / 3）

### 【空調機器メーカー】

＜課題＞ 保守サービス部門において、「空調機器の有償保守契約の減少」が課題となっていた。

＜現状＞ 1993年より、空調機の稼動データをセンサーで収集し、通信回線にて監視制御センターに送り、事前に故障を察知、予防保全や迅速なメンテナンスを行う遠隔サービスを実施。

＜IoT活用＞ 2008年から1分間隔で600項目におよぶデータを収集し、ゲートウェイとなる「ローカルコントローラー（LC）」で収集し、データ選別して、監視制御センターに送信している。

＜IoT導入のメリット＞ 現場担当の保守エンジニアの負荷軽減。（IoTない場合は、測定装置を持ってゆき、都度オンサイトでデータ収集が必要。）

また、LC活用で、必要なデータを効率よく、監視制御センターに送る仕組みとしたので、膨大なセンサー情報を収集することができ、故障予知の精度も高まっている。

## IoT活用ユーザのヒアリング調査（2 / 3）

### 【生産ライン制御等の機械メーカ】

＜課題＞ 販売した機器（製品）の保守は従来、故障連絡を受けてから対応していた。しかし、新興国などの市場では、国内と同様の保守サポート体制を構築することは難しい。販売をグローバルに拡大するには、この点が経営課題となっていた。

＜IoT活用＞ 製品に搭載された各種センサーによって、ログ情報や製品設定情報、通信ステータスなどの情報を自動取得し、データをクラウド側に送信して蓄積し、監視することが可能となっている。

＜IoT導入のメリット＞ リアルタイムに機器の状態が把握でき、こちらから先手を打つことが可能となり、突発的な故障や突然の呼び出しを大幅に減らすことができ、カスタマーエンジニア業務にもゆとりが生まれ、計画性のあるサポートが可能となった。

同機能搭載の製品の市場占有率が上がれば、保守サポート部門の業務効率を3割程度改善した運営が見込まれる。

## IoT活用ユーザのヒアリング調査（3 / 3）

### 【小売流通量販店】

＜課題＞ 徹底したローコストオペレーションにより、「安さ」を売りとした営業活動をしているが、顧客のクレームとして「レジ待ち時間の長さ」があった。

＜現状＞ 「レジ待ち」については、様々な改善活動を何度も行ってきたが、決定的な解決方法はなく、過去の経験から、おおよその混雑時間を予測し、それにあわせて、稼働レジを増減させる程度の対応であった。

＜IoT活用＞ 店舗の入り口に設置したサーモセンサー（赤外線）で入店客数をカウントし、レジ付近にも同様のセンサーを設置して、レジ（精算）を待っている顧客数をカウントする。これらのセンサーデータとレジの精算状況や曜日、時間帯のデータをつき合わせて、最適なレジ稼働台数を割り出すしくみを構築。

＜IoT導入のメリット＞ レジ混雑予測が実現し、効率的なレジ業務が実現できるようになった。当初は、「顧客満足度向上」が目的であったが、人件費の削減や店舗業務プロセスの見直しも実現できた。

## ITトレンド調査のまとめ

- IT投資は堅調に推移している。
- ネットワークセキュリティはさらに取組みが高まっている。
- クラウドコンピューティングは、着実に活用が進んでいる。  
パブリック活用中 36%(SaaS 30%/PaaS 17%/IaaS 15%)  
プライベート活用中 26%  
プライベートクラウドを外部事業者のDCで構築する企業は73%、  
大半がハウジングを利用。
- ビッグデータは、まだ使い道を見出しているユーザが少ないが、着実に導入が進んでいる。(活用/準備中14%)  
今後は、IoT活用とともに利用が増えると予測する。

## ご清聴、ありがとうございました。

- **今回使用した報告書**

「ITユーザトレンド2015

ビッグデータ・クラウド取組み動向調査（IS-16-情シ-1）」 2016年4月

「平成27年度サーバに関する

市場調査報告書（IS-16-情シ-2）」 2016年6月

- **報告書の入手方法**

以下のJEITAホームページから購入することができます。

<http://www.jeita.or.jp/japanese/public/index.htm>

報告書購入に関するお問合せ先

（社）電子情報技術産業協会 サービスセンター

TEL : 03-5212-1086 FAX : 03-3217-2725 E-Mail : support@jeita.or.jp